令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　国語

	観点１ 基礎･基本の定着 〇教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫 〇問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量 〇伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 〇教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現･表記 〇有効なさし絵・地図・図表などの資料等 〇児童にとって親しみやすい表現・表記	観点５ 言語活動の充実 〇教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・単元の冒頭と終わりに「言葉の力」として重要な内容を明示したり，言葉欄・漢字欄を設けたりしている。	・学ぶ道筋を3ステップで示し，学習過程や学び方を明確にしている。	・同時期に同領域の学習を配置している。また，重点指導事項を原則1単元1領域に絞って単元を配列している。	・写真や挿絵等がシンプルで，色合いが明瞭である。入学当初に行う活動を見開き1ページで表し，教材化している。（1年上P.10-25）	・説明・報告・紹介・討論などの言語活動を系統的に位置付けており，具体的な言語活動を示している。（3年上P.56－62，4年上P.52－57，5年P.50－55，6年P.52　－57）
	・前学年の漢字を復習するページ「漢字の練習」では，ことわざや慣用句を用いるなど出題の仕方に工夫がある。（6年P.73）	・直面する課題を主体的に解決する力を培うための教材を工夫している。（3年下P.8）（6年P.52，78） ・説明的な文章や文学的な文章の「学習の手引き」には，教科書で学んだことをもとに学びが広がるよう作品例が掲載してある。	・現代社会の課題である「防災・安全」「平和と共生」「情報化社会」「科学技術の発展」を扱った説明的な文章を取り上げている。		・学習の手引きには「生かそう」のコーナーがあり，学年の系統性や，単元で身に付けた言語能力を他教科の学習や生活の中で活用することを示している。（6年P.84）
	・巻末には，「学習で使う言葉」「言葉の広場」「言葉の力」等，言葉の習得に関するページを設けている。	・学年ごとに，発達段階に応じて「国語のノートの作り方」を示している。	・小教材「季節の足音」が各学年に設けられ，日本の四季が感じられるようになっている。 ・2年生以上の各巻に「日本の～」というテーマで様々な伝統・文化を紹介している。（3年下P.160）（6年P.270）	・説明的な文章や文学的な文章の単元の扉には，学習の導入となる文と絵を掲載している。 ・「付録」に，文学的な文章との関わりが深いものが配列してある。（3年下P.110-125 付録P.134-147）（4年下P.110-125 付録P.134-143）（5年P.116-135 付録P.262-271）	・「書くこと」領域では，物語や詩などを創作する活動を設定している。

学図	・教科書の初めに「付けたい力」を一覧にまとめ，その学年の目標を明確に提示している。 ・「言葉をつないで文を作ろう」「言葉のいずみ」「言葉のきまり」「言葉で遊ぼう」「漢字の広場」等，言語事項に関する教材がある。 ・巻末に資料編として，授業で使う言葉や学習したことのポイントがまとめてある。	・初めに「国語の学習の進め方を確かめよう」として，学習の進め方を示している。 ・「自分だけのノートを作ろう」では，ノートの書き方について紹介がある。（3年上P. 28，5年上P. 34）	・「昔から言い伝えられてきた言葉にふれよう」「言葉の響きやリズムを楽しもう」「言葉の文化を体験しよう」では故事成語，狂言，文語詩などを段階的に取り上げている。 ・「季節の便り」で，伝統的な言語文化を取り上げている。 ・各学年の最初に「言葉でつながる」ことをテーマとした，コミュニケーションについて考える単元がある。（5年上P. 14-15） ・地域の偉人「小野篁」について取り上げている。（5年上P. 120-123）	・写真や挿絵を効果的に使っている。（5年下P. 144-149） ・「さわっておどろく」では，実際に点字体験ができるよう紙面を工夫している。（4年下P. 84）	・「読書に親しもう」では，「絵を見て語り合おう」（6年上P. 76）や「物語の人物が答えます」（5年上P. 80）では，文学的な文章を読む必然性をもたせるように活動を設定している。

教出	・「言語」「漢字の広場」「文化」「読書」の言語事項に関する教材がある。	・「読むこと」教材のてびきが「4ステップ構造」で示してある。（4年上P. 24-25）	・「としょかんへ　いこう」で「にほんのおはなし」「がいこくのおはなし」を紹介し，学校図書館に対する興味・関心を高めた後，ロシアの民話である「おおきなかぶ」が配置してある。（1年上P. 74-91）	・伝統的な言語文化に関する教材には，写真が使われており，言葉の意味や場面を明確に示している。（3年上P. 62-67）	・付録にある「言葉の木＜考えるの木＞」では発達段階にそった言葉を，「言葉のまとめ」では言葉の使い方をまとめて示している。（6年下P. 142-143）
	・「漢字の広場」として，言葉や漢字の力を定着させるページがある。	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の下段に学習の進め方が示してある。	・伝統的な言語文化に関する教材が「文化」として設置してある。（6年上P. 22-27）		・単元名が具体的な活動になっている。（2年上P. 91）
	・説明的な文章を学ぶ際には，文章構成が類似した複数の文章を位置付け，学びのスキルを習得できるように設定してある。（3年上P. 50-51）	・付録には「ここが大事」のまとめがあり，児童が身に付けるべき内容を示している。			・司会者や発表者の役割を掲載し，各言語活動のポイントを示している。（4年下P. 38-39）
		・2枚の写真の間に何が起こったのかを考えて言葉で書く教材を学習するなど思考を高める工夫がある。（2年上P. 126-133）		・「はたらくじどう車」では，役割についての説明を分かりやすくするために効果的に写真を載せている。（1年下P. 12-16）	

光村	・習った漢字を使った文章を考える「漢字の広場」や季節の言葉・こよみなどを取り上げた「季節の言葉」等，言語事項に関する教材がある。 ・「国語の学びを見わたそう」に，前学年に学んだことや，当該学年で身に付けたい内容を示している。付録には，学習で身に付けた内容を領域ごとに整理した『「たいせつ」なまとめ』を設けている。	・児童が見通しをもって学習を進めるために，教材文の次のページに学習の進め方を示している。（3年下P. 78-79） ・遊びや自然から想像した絵を巻頭に用いている。（1年上巻頭P. 13） ・メモの取り方や資料の読み取り方など，情報の扱い方について，学年ごとに系統的に配列している。（2年上P. 78，5年P. 148）	・「古典の世界」や狂言，鳥獣戯画などの伝統文化に関する説明的な文章を取り上げている。（6年P. 141） ・各学年に，命や友だち，生き方をテーマにした内容の作品を位置付けている。平和に関する内容を3年生以上で系統的に取り上げている。（5年P. 105） ・「情報」教材と「書くこと」の単元を効果的に配列している。（5年P. 148 - 153	・「季節の言葉」のコーナーでは，統工芸や伝統的な文化に関する教材には，実際の写真を使っている。（5年P. 80 - 81　6年P. 163 - 173） ・「点字と手話」では，実際に点字体験ができるよう紙面を工夫している。（5年P. 251）	・「おもちゃの作り方を説明しよう」（2年下P. 46）や「もっと知りたい，友だちのこと」（3年上P. 40），「お礼の気持ちを伝えよう」（4年上P. 62）など，日常生活と関連のある内容となっている。 ・「本はともだち」では，「お気に入りの本をしょうかいしよう」（2年上P. 92）や「はじめて知ったことを知らせよう」（3年上P. 100），「作家で広げるわたしたちの読書」（5年P. 82）など，各学年で本との関わり方について具体例を提示している。

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　書写

	観点１ 基礎･基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・正しい姿勢や始筆・送筆・終筆，点画から点画への筆の動きが擬態語や擬音語で示してある。	・正しく整った文字を書くための原理・原則を「書写のかぎ」と名付け，1年間の学習のスタートとゴールを示している。（各学年巻頭折り込み）	・「文字のいずみ」というコーナーを設け，伝統的な文化に関する事柄，文字や文字文化・書写に関する事柄を学年に応じて取り上げている。（3年P.57　6年P.38-39）	・毛筆においては，2色の淡墨を使った運筆図により筆順を示している。	・「生活に広げよう」「学びを生かそう」「資料」において，国語科や他教科等，日常生活との関連を図った言語活動を設定している。
	・書く姿勢や用具の扱い方・後始末の仕方について，実物の写真や図等を用い説明している。	・「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返って話そう」「生活に広げよう」という学習パターンを示している。	・教科等との関連について，記号と関連教科名を用いて示している。（6年P.26）	・教科書の規格が横に広く，写真や手本の文字が大きい。（21cm×25.7cm）	
	・各学年の巻末には，「書写のかぎ」のコーナーがあり，指導すべき，基礎・基本が明記してある。（3年P.44-47）	・単元ごとに自己評価の観点を示し，友だちと話し合う活動を設けてある。	・身近な硬筆の文字から課題を見出し，毛筆の学習で確かめた後，同じねらいで硬筆に生かすようにしてある。（6年P.10-11）	・各見開きページの左側にその教材で学習する内容の項目ポイントを示している。（3年以上）	
		・手指の動きを体感できるように，巻末に水書用紙を添付している。（1・2年）		・大切なポイントについては，色を変えたり，記号化したりしている。	

学図	・えんぴつや筆の持ち方や書く姿勢，用具の扱い方・後始末の仕方について，実物の写真等を用い説明している。	・各学年とも，「たしかめて　かこう」「かんがえてかこう」「いかして　かこう」「ふりかえろう」という，「学習の進め方」を示している。 ・単元で学習したことを確かめるために，「ふりかえろう」のコーナーを設けている。 ・気を付けたいところや大事なところを見つけさせるために，シールを用いている。（1，2年生）	・「書写のふしぎ」のコーナーで，文字や伝統的な文化，書写に関する事柄を学年に応じて取り上げ，写真や図を使って紹介している。 ・裏表紙に「保護者の方へ」として単元名・学習の内容や目標の表示がある。	・書く時の見方・考え方を「書き方のカギ」として表記している。 ・中学年は，2色の淡墨を使った運筆図がある。（3年P.31）（4年P.39）	・学習したことを生かして，国語科や他教科との関連を図ったり，「書写の資料館」として日常生活に生かしたりする内容を各学年に配置している。（4年P49-59）
教出	・全学年に「はじめの学習」を設定し，よい姿勢，鉛筆や筆の持ち方等を示している。 また，3年生以上では，毛筆における書く姿勢や用具の扱い方・筆の運び方・後始末の仕方を説明している。 ・1年間で学習したことが確かめられるよう，全学年に「学年のまとめ」を設定している。 ・4年生以上には,巻頭に前学年までの学習をふり返る欄を設けている。	・3学年以上は，「見つける，比べる」「書く確かめる」「ふり返る，伝え合う」「広げる」という，「学習の進め方」を示している。「学習の進め方」を示している。 ・単元ごとに自己評価の観点を示し，評価欄を設けている。 ・巻末に手指の動きを体感するための水書用紙が添付してある。（1年）	・文字や文字文化・書写に関する事柄について写真を使い紹介している。 ・「レッツ・トライ」において国語科や他教科等，日常生活との関連を示している。 ・3学年以上で，硬筆を中心に短歌・俳句・古典等を取り上げている。	・2色の淡墨を使った運筆図がある。 ・筆使いは,はっきりした色使いの運筆図や2色の淡墨を使った運筆図を簡潔な表現で説明している。（3年P.15）	・「書いて伝えよう」や「レッツ・トライ」において国語科や他教科等，日常生活との関連を図った言語活動を設定している。

光村	・「しょしゃ体操」として，よい姿勢を維持するための運動を取り上げている。（1年P.2　2年P.1） ・「毛筆のきほん」や「いつも気をつけよう」として，用具の準備・片付け，姿勢や筆の持ち方が巻頭で確かめられるよう工夫している。（3年生以上） ・正しい姿勢や始筆・送筆・終筆について，擬態語や擬音語で示している。	・めあてや学習活動を明記し，比較したり，理由を考えさせたりする学習の流れを示している。（4年P.8） ・目次にその学年のめあてを示し，年間の見通しをもたせている。（5年P.1，6年P.1） ・単元ごとに自己評価の観点が示され，自己評価欄が設けられている。	・2学年以上で，「もっと知りたい」というコーナーを設け，文字文化や書写に関する事柄を取り上げている。第6学年では文字の歴史と社会科との関連する内容を紹介している。（6年P.28） ・「招待状の書き方」「横書きの書き方」「英語で書いてみよう」など，他教科等との関連を図った学習活動があり，目次にも示されている。（2年P.32）（5年P.38）	・「たいせつ」として，点画の関係や筆運び等について，キャラクターや挿絵を使って筆の動きが擬態語や擬音語で示し，書くリズムやポイントを確認する構成となっている。（3年P.12） ・筆使いをとらえさせるために「たしかめようシール」を巻頭につけている。（3年以上） ・毛筆においては，2色の淡墨を使った運筆図がある。 ・点画の書き方をとらえさせるために巻末に「水書シート」をつけ，取り外しても使用できるようにしている。（1年）	・巻末には「たいせつ」のまとめが掲載されている。 ・「資料」として日常生活に生かす内容がある。特に，第6学年では「書写ブック」としてまとめている。（6年P.19-27）

日文	・めあてと「できたかな」（自己評価）の項目を設定している。（1年P. 12-13） ・正しい姿勢や始筆・送筆・終筆や文字の形についてイラストを用いながら説明している。（2年P. 16）	・主体的に学習する力を身に付けるために，全学年で「書写学習の進め方」を取り上げている。 ・学習の進め方として「かんがえる」「たしかめる」「いかす」という学習の流れやポイントを示している。（1年P. 26-27）	・漢字やひらがなどの文字の歴史や表記方法，筆記教具など，伝統的な文化に関する教材を学年に応じて取り上げている。 ・書写で身に付けた力を様々な場面で活用したり，語彙力を高めたりするために，「国語の広場」や「生活と書写」のコーナーがある。手紙や掲示物の書き方を紹介するなど他教科との関連が図れる構成となっている。（6年P. 38-39　42） ・3年生以上では，同じねらいを設定した毛筆教材と硬筆教材を続けて配列し，毛筆で習得したことを硬筆に生かせるようにしている。（6年P. 12-15） ・毛筆教材数，硬筆教材数が他社に比べて多い。	・筆使いのイメージをイラスト化し，説明している。（3年P. 18） ・硬筆においては，字の形・点画の注意点や筆順などが，点や矢印を用いて説明してある。毛筆においては，2色の淡墨を使った運筆図がある。（2年P. 16）（5年P. 8） ・1年生・2年生では，巻末に，画の終わりや途中の書き方を練習するために，取り外しができる「水書シート」をつけている。	全学年で「ことばのまど」があり，表現力を高めるための工夫がある。（4年P. 34）（5年P. 28）

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　社会

	観点１ 基礎･基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東京書籍	・グラフや図等の資料の脇に資料を読み取る際に注目すべき点について示しており，グラフや年表等を読み取る際の基礎的な事項についての記述がある。第3学年（5か所），第4学年（6か所），第5学年（9か所），第6学年（9か所）	・大単元の導入では，見開きページを使って写真やグラフ等の複数の資料を提示し，キャラクターが話し合う中で学習課題が生まれる構成となっている。	・地域の伝統や文化の単元の中で，主として有形文化財と伝統芸能，伝統行事を学ぶ構成となっている。（第4学年）	・教科書の折り込みページを利用して，資料をより大きく提示し，特色をつかみやすくする等，資料提示を工夫している。（第3学年は1点，第4学年は1点，第5学年は4点，第6学年は2点）	・単元末のまとめ方として，学習内容を整理したり，深めたりする目的で，多様な言語活動例が示されている。（第3学年P. 30, 64等）
	・重要語句を本文脇に「ことば」として示し，その語句の説明を記述している。（第3学年P. 9等）	・見開きの2ページを使用して，「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の4過程に分けて社会科の学習の進め方について解説してある。また，本文中に現在学習中の過程が表記している。	・児童にとって身近な広島県に関わる内容を，第5学年に4項目（第5学年下P. 70-73等），第6学年に1項目（第6学年歴史P. 128）設定している。	・見開き1ページの中で比較しながら考えることで，変遷や特色を掴むことのできる資料を示している。（第3学年は3点，第4学年は7点，第5学年は4点，第6学年は9点）	
	・重要語句については，本文中に太字で表記している。（第5，6学年のみ）	・「せんたく」「ひろげる」において，単元に関連する別事例や新しい取組等を提示している。	・教科書下部に適宜，教科関連マークを明示している。（第3学年P. 8等）	・第5学年と第6学年において，教科書を分冊にして編纂している。	
	・単元末のまとめのページには，単元に出てきた「ことば」を枠囲みでまとめて示している。（第3学年P. 64等）	・見方・考え方を働かせる段階では，特別なキャラクターを使用して，問いにより社会的事象の見方を，呼びかけにより考え方・追究の方向性を示している。（第3学年P. 8等）			
	・重要語句について，巻末の索引の記載ページに示している。（全学年）	・動画，デジタルコンテンツ，関連HPを活用できるようにしている。また，ワークシート，グラフ等をダウンロードして活用できるようにしている。（例えば，第5学年は18項目）			

教育出版	・グラフや図等の資料の脇に資料から読み取って考えるまでの道筋を番号順に並べて記述している。第3学年（6か所），第4学年（7か所），第5学年（12か所），第6学年（11か所） ・重要語句を本文脇に「キーワード」として示し，その語句の解説を適宜記述している（第3学年P. 18等） ・重要語句については，本文中に太字で示している。（第5，6学年のみ） ・単元末のまとめのページには，単元に出てきた「キーワード」を枠囲みでまとめて示している。（第3学年P. 16等） ・重要語句について，巻末の索引に記載ページを示している。（全学年）	・大単元の導入では，見開きページを使って写真やグラフ等の複数の資料を提示し，キャラクターが話し合う中で学習課題が生まれる構成となっている。（第3学年P. 4，5等） ・巻頭部分の2ページを使用して，「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の4過程に分けて社会科の学習の進め方について解説している。 ・「せんたく」（第3学年P. 64等），「ひろげる」（第3学年P. 48等）において，単元に関連する別事例や新しい取組等を提示している。 ・見方・考え方を働かせる場面では，キャラクターが問いかけの形で思考の方向性を示している。 ・動画，関連HPを活用できるようにしている。また，ワークシート，グラフ等をダウンロードして活用できるようにしている。（例えば，第5学年は43項目）	・地域の伝統や文化の単元の中で，主として伝統行事と伝統芸能を学ぶ構成になっている。（第4学年） ・児童にとって身近な広島県に関わる内容を，第5学年に2項目（P. 240），第6学年に１項目(P. 213)設定している。	・教科書の折り込みページを利用して，資料提示を工夫している。（第4学年は1点，第5学年は2点，第6学年は2点） ・見開き1ページの中で比較しながら考えることのできる資料を示している。（第3学年は8点，第4学年は8点，第5学年は10点，第6学年は15点）	・単元末のまとめ方として，学習内容を整理したり，深めたりする目的で，多様な言語活動例を示している。（第3学年P. 16，38等）

日本文教出版	・グラフや図等の資料の脇に資料から読み取って考えるまでの道筋を【確かめる→見つける→考える】の3段階で記述している。第3学年（8か所），第4学年（6か所），第5学年（7か所），第6学年（4か所） ・重要語句を本文脇に「キーワード」として示し，その語句の説明を記述している。（第3学年P. 16等） ・重要語句については，本文中に太字で表記している。（全学年） ・重要語句について，巻末の索引に記載ページを示している。（全学年）	・大単元の導入では，見開きページを使って写真やグラフ等の複数の資料を提示し，キャラクターが話し合う中で学習課題が生まれる構成となっている。 ・巻頭部分の1ページを使用して，「この教科書の使い方」を示している。 ・「せんたく」（第3学年P. 56），「わたしたちの学びを生かそう」（第3学年p. 88等）において，単元に関連する別事例や，新しい取組等を提示している。 ・見方・考え方を働かせる場面では，特別なキャラクターが空間，時間，関係という視点を示して，思考の方向性を示している。 ・関連のある動画を活用できるようにしている。（例えば第5学年6項目）	・地域の伝統や文化の単元の中で，主として有形文化財と伝統行事を学ぶ構成になっている。（第4学年） ・児童にとって身近な広島県に関わる内容を，第3学年に1単元（P. 106-121）の，第6学年に1項目（P. 208)設定している。	・教科書の折り込みページを利用して，資料提示を工夫している。（第3学年は3点，第5学年は1点，第6学年は3点） ・見開き１ページの中で比較しながら考えることのできる資料を示している。（第3学年は3点，第4学年は7点，第5学年は5点，第6学年は9点）	・単元末のまとめとして，話合い活動を多く取り入れ，単元の振り返りのノートを各単元で例示している。（第3学年P. 39等）

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　地図

	観点１ 基礎･基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・高い所から眺めた町の様子と，真上から見た様子を比べさせることで，地図の特徴を示している。（P.7-12） ・「地図の使い方」として，地図記号や縮尺等，地図帳の使い方を2ページにまとめて示している。（P.13-14） ・日本の領土とその周辺のページにおいて，南端，北端，東端，西端の島々の写真と，断面図の模式図を使って領土が理解できるようにし，国土の基本統計を掲載している。（P.15-16） ・地球儀の特徴，使い方，地図との違いについて示している。（P.55-56）	・都道府県の形を身近な似ているものに見立てることで，関心をもって地図に取り組めるようにしている。（P.5-6） ・地図中に吹き出しを入れている。 ・2次元コードを示し，地図に関する情報を追究できるようにしている。（P.96）	・東広島市が，100万分の1の地図に記載されている。（P.27-30） ・東京，京都等，我が国の政治や歴史に関係する都市を中心部として明示している。（P.35-36，P.47-48） ・日本の歴史と世界の関わりについて，年表や地図で示し，日本の世界遺産を地図にまとめている。（P.75-80） ・日本の自然災害を地震，津波の両面から示し，ハザードマップ等自然災害に備える記載がされている。（P.97-99）	・世界地図や日本地図にイラストを入れ，国や県の特徴を分かりやすく表記している。（P.1-4） ・地図上の1cmは実際の10Kmの距離を表す縮尺で地図を作成している。	・地図中に吹き出しを入れ，具体的な言語活動を促している。 ・防災マップ作りについて掲載し，自然災害に備え身近な避難場所を考えさせようとしている。（P.97-99）

	・写真やイラストを使用し，日常生活における視界から，角度，範囲，表し方を段階的に変化させて示している。（P.7-8）	・地図マスターを各地域に示すとともに（地図マスターは80か所），巻末にそのまとめを行うことで，地図への関心を高めようとしている。（P.117）	・東広島市が，100万分の1，50万分の1の地図に記載されており，特に50万分の1の地図では詳細に示されている。（P.37-42）	・地図上の1cmは実際の10Kmの距離を表す縮尺で地図を作成している。広く見わたす地図には，長い物差しを示し，大まかな距離が分かるようにしている。	・世界発見として問題を入れ，地図を活用した言語活動例を示している。（P.1）
	・「地図のやくそく」として，紙面を多くとり，イラストを多く用いた説明と作業を通して地図の見方の基本を示している。（P.9-13）	・世界地図ごとに「集まれ世界の子供たち」として，国による文化の違いを示している。	・原爆による広島市の被害状況が示されている。（P.41）	・世界地図にイラストや外国語を入れ，国の特徴を分かりやすく表記している。（P.1-4）	・地図の見方を「たからじまの地図」の様子から学ぶことができるようにしている。（P.14）
	・「地図帳の使い方」として，基本的な地図記号や色の意味等について，イラストや写真を用いて大きく示している。（P.15-18）	・世界地図の中に身近な話題として出てくる地名や事象について説明を加えている。	・京都，奈良における歴史的な主な建築物等を示している。	・日本の地形や周囲の海の深さ，国土の山の高さ等，色分けしながら分かりやすく表現している。（P.4-6）	・防災マップ作りの主な手順を明示し，身近な避難場所を確認したり，避難方法を考えさせようとしたりしている。（P.93-94）
帝国	・日本の領土とその周辺のページにおいて，国の範囲を理解できるように鳥瞰的な模式図を示し，南端，北端，東端，西端の島々の写真に加え，我が国固有の領土である島々の写真を掲載している。（P.29-30）	・都道府県の形，文字，位置等についてのクイズを掲載している。（P.115）	・東京，大阪，京都等，我が国の政治や歴史に関係する都市を中心部として明示している。（P.47-50，P.61-65）	・広く見わたす地図と詳しい地図を2種類設け，学年に応じて使い分けることができるようにしている。（P.19-28）	
	・地球儀の特徴，使い方，地図との違いについて示し，世界の陸地と海洋の面積を地図とグラフによって示している。（P.73-74）	・各ページに2次元コードを示し，地図に関する情報を追究できるようにしている。	・日本の自然災害を地震，津波の両面から示し，自然災害の備えや防災マップ等示している。（P.91-94）		
		・広く見わたす地図を記載し，日本全体が俯瞰できるようにしている。（P.19-28）	・日本の歴史と世界遺産を年表と対比させ示している。（P.101-102）		

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究　報告書

種目　算数

	観点1 基礎・基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成・配列・分量	観点4 内容の表現･表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習状況調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を扱っている。また,基になる既習の学習(整数の割り算)とのつながりを数学的な見方としている。(5年上P.57)	･「公倍数」の学習を活用して「新幹線の座席決め」を課題解決する等，日常生活へのつながりを意識した学習が設定してある。(5年上P.107)	・1年生は，スタートの2単元のみを入れたA4サイズの①とB5サイズの②の分冊となっている。2年生から5年生は，上下巻の分冊，6年生は1冊となっている。	・水槽の絵の上に直接ブロックを載せて操作する空の水槽の絵がある。操作した後で，ブロックが無くなったことが分かるよう，敷物が敷いてあるブロック図になっている。ブロック操作の手順を吹き出しで図の横に示している。(1年②P.14-15)	･ノートの作り方が，2～6年生の上下巻に示してある。問題，自分の考え，友だちの考え，まとめ，学習感想を書くようにしている。(3年上P.4-5)
	・ブロックを用いたゲーム形式で数の合成・分解をしている。見つけた数を教科書に書きこむために，解答欄をノートと同じ大きさ・形式で記載している。練習問題は15問である。(1年1P.20-21)	･巻頭に問題解決学習の進め方について学ぶ「学びのとびら」が板書形態にそって整理してある。(5年P.2)	・「円と球」の導入で，12人で玉入れをする時に，どのように並べばよいか，どのような線を引けばよいかを考えさせている。(3年上P.121)	･角度の測り方を3段階で示し，右に0度がくるものを例として示している。各ページ教科書の4分の1のスペースを使用している。(4年上P.60-61)	･巻頭「学びのとびら」や抽出単元中の「今日の深い学び」で，問題のつかみ方，考えの書き表し方，友だちの意見の聞き方，振り返りの仕方などの例を示している。(3年上P.2･3)(3年上P.15-17)
	・各時間のまとめ，各単元のまとめにそれぞれ数学的な見方・考え方をマークで示している。6年最終単元に6年間の学習における数学的な見方・考え方をまとめている。(6年P.198)	・「調査用データ」「ドットプロット」「線対称・点対称」等，巻末に体験的な学習を促す教材が添付されている。(6年P.277)	･昔の長さの単位や和算を紹介するなど，日本の伝統文化が扱われている。(3年上P.66・6上P.212・P.236)	･分度器の使い方を示すと同時に，左からと右からの角度を測るようにしている。分度器を図で表示し，左右の目盛りの色分けをしている。(4年上P.60)	
	・基礎的・基本的な内容の定着のために，単元導入時の振り返りや単元終了時の復習のページがある。また，各時間の練習問題に加えて，本時に合う巻末の補充の問題が使えるようになっている。学年末には，学年の復習のページがある。		･「単位量あたりの大きさ」の導入において，「得」「こむ」という概念を通して,2量の内の1つの量ををもとにして比較するように視点を与えている。その後3例で比較している。(5年下P.29)	･「割合」で比べ方を考える際，基準量と比較量と割合を2つの数直線に表現している。(5年下P.68)	

大日本	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習状況調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を視覚化して扱っている。また，基になる既習の学習(整数の割り算)とのつながりが表記されている。(5年P. 73)	・「割合」の学習を活用して「お得な割引券の使用」について課題解決する等，日常生活へのつながりを意識した学習が設定してある。(5年P. 170)	・1年生から6年生まで，各学年1冊となっている。	・直接ブロックを載せて考えるために金魚の絵がある。式と答えを四角で囲み，目立たせている。(1年P. 51-52)	・2～6年の巻頭にノートの書き方が示してある。問題，見通しと自分の考え，友だちの考え，まとめ，練習問題，振り返りを書くようにしている。(3年P. 8-9)
	・おはじきを用いたゲーム形式で数の合成・分解をしている。並んだおはじきの絵を見て数を調べる活動をする。(1年P. 31-32)	・巻頭に問題解決学習の進め方について学ぶ「算数学びナビ」が整理してある。また，話し合い活動のポイントが示してある。(5年P. 6)	・「円と球」の導入で，8人で輪投げをする時に，公平な輪投げができる並び方を，図で表して考えさせている。(3年P. 95)	・中心の合わせ方を丁寧に扱った後に，角度のはかり方を2段階(3文)で示し，右に0度がくるものを例として示している。各ページ教科書の3分の1のスペースを使用。(4年上P. 50-51)	・2～6年の巻頭「算数まなびナビ」で，問題のつかみ方，考えの書き表し方，友だちの意見の聞き方，振り返りの仕方などの例が示してある。また，「話しながら学ぼう」というコーナーで，どんな時に何を話し合うか明記してある。(3年上P. 6-7)
	・「発見!考え方」や「ひらめきアイテム」などの記号で，数学的な見方・考え方を示している。教科書最後のページにひらめきアイテムをまとめるページがある。(2年P. 222, 241)	・「円の面積」「線対称・点対称」等，巻末に体験的な学習を促す教材が切り離しやすい形で添付されている。(6年P. 265)	・和算の紹介等，日本の伝統文化が扱われている。(6年P. 216)	・分度器の使い方を示すと同時に，V字・左から・右下の3つの角度を測るようにしている。分度器を写真で表示し，左右の目盛りの色分けをしている。(4年上P. 51)	・2～6年の抽出単元の中に，板書と対応させながら，つかむ，考える，学び合う，まとめる，使ってみる，振り返るの例が示してある。(4年P. 30-35)
	・基礎的・基本的な内容の定着のために，単元終了時の復習のページがある。学年末には，学年の復習のページがある。		・「単位量あたりの大きさ」の導入において，「こむ」という概念を理解させる上で，見た目だけでは比較できないことを事前に押さえる学習がある。その後3例で比較している。(5年上P. 135)	・「割合」で比べ方を考える際，基準量と比較量と割合を2つの数直線に表現している。また，1より小さい割合(倍)で導入している。(5年P. 155)	

学図	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を丁寧に扱っている。また，小数点を移動する意味や基になる既習の学習（整数の割り算）とのつながりが表記されている。（5年上P. 85）	・「円」の学習を活用して「自転車の後輪と補助輪の関係」を考える等，日常生活へのつながりを意識した学習を設定している。（5年下P. 81）	・1年生から5年生は，上下巻の分冊，6年生は，1冊の教科書と「中学校へのかけ橋」の2冊となっている。	・直接ブロックを載せて考える金魚の絵がある。操作した後で，ブロックが無くなったことが分かるよう，敷物が敷いてあるブロック図になっている。ブロックをキャラクターが引っ張るイラストで減ることを表している。（1年上P. 51-52）	・ノートの書き方が「考えるノート」として2～6年の上巻に1ページで示され，問題，自分の考え，友だちの考えを書くようにしている。（3年，上P. 17）また，下巻には，「まとめるノート」として見開き1ページでノート作りができるように発展的に扱っている。（3年下P. 32-33）
	・ボールを箱に入れるゲームで数の合成・分解をしている。ボールが箱に分かれて入っている絵を見て数を調べる活動をする。練習問題は3問である。（1年上P. 24-25）	・巻頭に，問題解決学習の進め方について，主体的な学び・対話的な学び・深い学びの3つの視点で学び方が整理してある。（5年上P. 8）	・「円と球」の導入で，玉入れゲームをする時に，かごからの距離がみんな同じになるには，どんな並び方をすればよいか，図におはじきやブロックを置いて考えさせている。（3年下P. 21）	・角度の測り方を3段階で示し，右に0度がくるものを例として示している。教科書の3分の1のスペースを使用している。（4年上P. 63）	・巻頭「3つの学び方」で，友だちとともに学び合う「対話的な学び」について例が示してある。（3年上P. 8-9）（4年上P. 8-9）
	・「考え方モンスター」のキャラクターが身に付けさせたい数学的な見方・考え方を吹き出しで示している。2年生以上の教科書の最初に，これまでに見付けた内容をまとめたページがある。（6年P5-6）	・「円の面積」「線対称・点対称」等，巻末に体験的な学習を促す教材がより切り離しやすい形で添付されている。（6年P. 245）	・そろばんを伝統文化の視点でとらえて紹介している。（3年下P. 128）	・分度器の使い方を示すに，V字と同時に右からの角度を測るようにしている。分度器を図で表示し，左右の目盛りを1色で表している。（4年上P. 63）	・全学年の単元全てに，知りたいな（解決したいな），表したいな，考えたいな，確かめたいな，広げたいな等，今どの活動をしているのかが明記されている。
	・基礎的・基本的な内容の定着のために，単元終了時の復習のページがある。また，各時間の練習問題に加えて，本時に合う巻末の補充の問題が使えるようになっている。学年末には，学年の復習のページがある。		・「単位量あたりの大きさ」の導入において，「こむ」という概念を理解させる上で，2つの量がどちらとも異なる場面では比較できないことを事前におさえる学習がある。その後3例で比較している。（5年上P. 51）	・「割合」で比べ方を考える際，基準量と比較量と割合を数直線とテープ図に表現している。また，1より小さい割合（倍）で導入している。（5年下P. 33）	

教出	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習状況調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を丁寧に扱っている。また，小数点を移動する意味や基になる既習の学習（整数の割り算）とのつながりが表記されている。（5年P. 85）	・「割合」の学習を活用して「お得な買い物」について課題解決する等，日常生活へのつながりを意識した学習が設定してある。（5年P. 181）	・1年生と5・6年生は1冊，2年生から5年生は，上下巻の分冊となっている。	・金魚の絵とキャラクターとブロック図を横に並べ，対応させている。ブロック操作の手順を吹き出しで入れ，キャラクターのセリフで示している。（1年P. 58）	・ノートの書き方が2～6年に示してある。問題，自分の疑問，自分の考え，友だちの考え，まとめ，なるほどと思ったこと，たしかめ問題，感想を書くようにしている。（3年上P. 26-27）
	・おはじきをとるゲームで数の合成・分解をしている。並べたおはじきの絵に色を塗って数を調べる活動をする。（1年P. 31-32）	・巻頭に，問題解決学習の進め方について学ぶ箇所が整理してある。（5年P. 4）	・「円と球」の導入で，たくさんの人が公平に玉入れができる並び方を，図（ノートに点）をかいて考えさせている。（3年上P. 119）	・角度の測り方を3段階で示し，右に0度がくるものを例として示している。教科書の3分の1のスペースを使用。（4年上P. 62）	・巻頭「学習の進め方」で，問題をつかむ，自分の考えをもつ，みんなで話し合う，振り返るなどの例が2～6年に示してある。また，「学びを深める大切な言葉」というコーナーで，それぞれの場面で使ったらよい言葉や考え方が明記してある。（3年上P. 3-5）
	・記号で基本となる数学的な見方・考え方を示している。（2年上P. 17）	・「円の面積」等，巻末に体験的な学習を促す教材が切り離しやすい形で添付されている。（6年P. 273）	・昔の長さの単位や和算の紹介をするなど，日本の伝統文化が扱われている。（3年上P. 77）（6年P. 226）	・分度器の目盛りの読み方を重視した後に，書き方について扱い，左からと右から（いずれも分度器の目盛付き）の2つの角度を測るようにしている。分度器を図で表示し，左右の目盛りを1色で表している。（4年上P. 63）	・2～6年巻頭に「算数がすきになるはじめの一歩」で，問題をつかむ，自分の考えをもつ，みんなで話し合う，振り返る，広げて考えるの授業の流れを，イラストと吹き出しを使って明記している。（3年上P7-9）
	・基礎的・基本的な内容の定着のために，単元終了時の復習のページがある。また，各時間の練習問題に加えて，本時に合う巻末の補充の問題が使えるようになっている。学年末には，学年の復習のページがある。		・「単位量あたりの大きさ」の導入において，「こむ」という概念を理解させる上で，2つの量がどちらとも異なる場面では，比較できないことを事前におさえる学習がある。その後3例で比較している。（5年P. 139）	・「割合」で比べ方を考える際，基準量と比較量と割合を1つの数直線に表現している。また，単元の導入段階では，テープ図を組み合わせた図となっている。1より小さい割合（倍）で導入している。（5年P. 170）	

啓林館	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習状況調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を丁寧に扱っている。異なる2例を示して説明がある。(5年P. 59) ・いすとりゲームの結果を用いて，数の合成・分解をしている。並べた帽子の絵に色を塗って数を調べる活動をする。(1年P. 22-23) ・各単元の終わりに「ふりかえろう」のページを設け，今後も使っていきたい考え方を示している。 ・基礎的・基本的な内容の定着のために，単元前の準備・単元終了時まとめのページがある。また，各時間の練習問題に加えて，本時に合う巻末の補充の問題が使えるようになっている。学年末には，学年の復習のページがある。	・「(歩幅の)平均」の学習を活用して身の回りの様々な距離を実際に調べる等，日常生活へのつながりを意識した学習が促してある。(5年P. 157) ・巻頭に，問題解決学習の進め方について学ぶ箇所が板書にそって整理してある。また，次ページ「わくわく算数学習」には，一つの授業例の流れに沿って問題解決学習の方法を具体的に説明している。(5年P. 4-7) ・「円の面積」「線対称・点対称」「拡大図・縮図」「プログラムの仕組み」等，巻末に体験的な学習を促す教材が切り離しやすい形で添付されている。(6年P. 293)	・1年生と5・6年生は1冊，2年生から4年生は，上下巻の分冊となっている。 ・「円と球」の導入で，まるい形の色々なかき方を考えさせている。(3年下P. 4) ・そろばんを伝統文化の視点でとらえて紹介している。(3年上P. 100) ・「単位量あたりの大きさ」の導入において，特設的な事前学習はなく，「こむ」という概念を理解させる上で，一つの条件を揃えれば比較できる事を事前におさえる学習がある。その後4例で比較している。(5年P. 159)	・絵の上に直接ブロックを乗せて操作して考える問題が3種類ある。ブロック図，言葉，式，答えを1つの枠で囲んで関連を強調している。(1年上. 50-52) ・角度のはかり方を3段階で示し，右に0度がくるものを例として示している。左ページは教科書の約3分の1のスペースを使用している。(4年上P. 14-15) ・分度器の使い方を示すと同時に，右からとV字の角度を比較するようにしている。分度器を図で表示し，左右の目盛りを1色で表している。(4年上P. 15) ・「割合」で比べ方を考える際，単元の導入段階では，基準量と比較量を2つのテープ図に，割合を数直線に表現している。その後，基準量，比較量，割合を一つの線分図にまとめている。1より大きい割合(倍)と小さい割合の両方で導入している。(5年P. 173)	・2～6年上の巻頭にノートの書き方が示してある。問題，学習のめあて，自分の考え，友だちの考え，練習問題，振り返りを書くようにしている。(3年上P. 8-9) ・2～6年上の巻頭に「学習の進め方」で，どんな問題かな，自分で考えよう，みんなで話しあおう，たしかめようふりかえろうの例が示してある。また，「たいせつなことば」というコーナーで，それぞれの場面で使ったらよい言葉や考え方が明記してある。(3年上P. 4-5) ・2～6年上の巻巻の「わくわく算数学習」では，詳しい学習場面を設定し，イラストと吹き出しを使って友達の多様な発言内容を掲載し，学習の進め方を示している。(3年上P. 6-7)

日文	・小数で割る筆算問題等，全国学力・学習状況調査結果を踏まえ，つまずきのある問題を扱っている。（5年上P. 78）	・「速さ」の学習後の「身の回りの速さ調べ」等，学習したことを活用しての調査活動や自己テーマを設定しての課題解決学習を促す学習があり，日常生活へのつながりを意識している。（5年下P. 29）	・1年生から5年生は，上下巻の分冊，6年生は，1冊となっている。	・水槽の絵の上に直接ブロックを載せて操作する空の水槽の絵がある。操作の仕方を吹き出しでブロック図の横に入れている。（1年上P. 55-56）	・2～6年の上下巻に，ノートの書きが示してある。問題，めあて，見通し，自分の考え，友だちの考え，まとめ，振り返りを書くようにしている。（3年上P. 4-・5）
	・グループ作りゲームの結果を用いて，数の合成・分解をしている。並べたゼッケンの絵に色を塗って数を調べる活動をする。（1年上P. 33-34）	・巻頭に，問題解決学習の進め方について学ぶ箇所がある。また，巻末に「学び方ガイド」を厚手の用紙で添付され，年間を通して継続的に使用できるようにしている。（5年上P. 2）	・「円と球」の導入で，点アから5㎝のところに点をたくさんかいてどんな形になるのかを考えさせている。（3年上P. 121）	・角度のはかり方を3段階で示し，右に0度がくるものを例として示している。教科書の3分の1のスペースを使用。（4年上P. 63）	・2～6年の上巻末に「学び方ガイド」で，どんな問題かな，考えよう，学び合おう，ふりかえろうの流れが示してあり，それぞれの場面で何をするかということも示してある。（3年上最終頁）
	・マークで数学的な見方・考え方につながる，考え方のヒントを示している。2年以上の上巻末には，学年に応じた「算数で使いたい言葉・考え方」を付けている。	・「線対称・点対称」等，巻末に体験的な学習を促す教材が添付されている。（6年P. 281）	・昔の長さの単位の紹介等，日本の伝統文化が扱われている。（3年上P. 90）	・分度器の使い方を示すと同時に，左からと右から測る角度を比較するようにしている。分度器を図で表示し，左右の目盛りの色分けをしている。（4年上P. 62）	・2～6年の上下巻の抽出単元の中に，「自分でみんなで」という視点が示され，板書と対応させながら，どんな問題かな，考えよう，学び合おう，振り返ろうの例が示してある。（3年上P. 20-23）
	・基礎的基本的な内容の定着のために，単元導入時の振り返り・単元終了時のまとめのページがある。巻末に補充の問題がある。学年末には，学年の復習のページがある。		・「単位量あたりの大きさ」の導入において，事前学習と本時の学習を同じ状況場面で扱っている。その後，比較対象を2例に絞って課題提示している。（5年下P. 17）	・「割合」で比べ方を考える際，単元の導入段階では，基準量と比較量を2つのテープ図に，割合を数直線に表現している。その後，2つの数直線にまとめている。1より小さい割合（倍）で導入している。（5年下P. 44）	

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

教科　理科

	観点１ 基礎･基本の定着 〇教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫 〇問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量 〇伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 〇教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現･表記 〇有効なさし絵・地図・図表などの資料等 〇児童にとって親しみやすい表現・表記	観点５ 言語活動の充実 〇教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・全学年の巻末に『理科の調べ方を身につけよう』のコーナーがあり，ノートの書き方や話合いの仕方，実験・観察の仕方等の説明がある。	・巻頭にある『理科の学び方』で，「問題」から「振り返る」までのプロセスが示している。	・巻末に『算数科で学んだことを活用しよう』があり，グラフの書き方や活用の仕方を記載している。	・全学年に黒いクマのキャラクターが『理科のミカタ』で注目する事柄を示している。	・単元末に，『たしかめよう』『考えよう』『ふり返ろう』で考えを発表したり，説明したりするように設けている。（3年P. 105，4年P. 152-153）
	・安全に実験や観察を行うポイントを「きけん」という見出しで書いている。（5年P. 137）	・単元の導入時に，課題づくりの場面における対話の具体例（日常生活から興味をもつような流れ）を示している。（4年P. 42　3年P. 96）	・Ｗｅｂサイトソフトを活用して，プログラミング体験をすることができる。（6年P. 160）	・写真は，変化が視覚的に捉えられるようコマ数が多く，半ページのものが2P付してある。（3年P. 27-31）	・「学びを生かして深めよう」や単元末の「たしかめよう」の中の「考えよう」で，説明させる活動を位置づけている。（5年P. 46　P. 47）
	・画像，動画，資料やシミュレーションなどのコンテンツを用いて，実験器具の操作等基礎的・基本的な技能を紹介している。	・「理科のひろば」で，日常生活との関連付けを図っている。（5年P. 115）		・「発芽と成長」，「物のとけ方」と「ふりこ」でグループごとの結果をクラス全体でグラフに表し，他のグループの結果も合わせて考えさせている。（5年P. 26，　P. 108，P. 158）	・6年において，単元末「考えよう」において，活用に関する問題の4つの枠組み「適用」「分析」「構想」「改善」に沿った問題を掲載し，考えを説明する場面を設定している。
	・分からなかったときに振り返るページが掲載されている。「たしかめよう（6年P. 28-29）」	・問題解決後には，児童に学んだことを生かして日常生活の事象などについて考え，説明させる場面がある。 「学びを生かして深めよう（6年P. 156）」 ・単元導入と単元末に同じ問いかけを掲載してある。 「考察しよう（6年P. 149, P. 165）」		・「理科の見方」を「理科のミカタ」としてキャラクターと共に示し，「理科の考え方」を下線を引いて強調している。（6年P. 23）	

大日本	・巻末『わたしたちの理科室』で実験器具の扱い方が掲載している。(4年P. 208-215) ・巻末にチャレンジ問題や『〇年生になったら』という次学年で学ぶ主な事柄が紹介している。(5年P188-189，P. 190) ・単元末に「たしかめよう」「学んだことを生かそう」があり，学びのふり返りができる。(3年P. 144) ・安全に実験や観察を行うポイントを「注意」という見出しで書いている。（5年P. 149) ・動画やリンク集を用いて，実験器具の操作実験器具の操作等基礎的・基本的な技能を紹介している。	・問題解決の過程を7つの項目で分け，問題部分を大きな文字で示している。（4年P. 102-104） ・単元初めの写真がダイナミックである。その写真を活用して問題を見つけるためのふきだしの工夫がある。（4年P. 80） ・5年において，問題解決のステップを5から6つの項目でまとめている。 ・問題解決後には，学んだことを生かして日常生活の事象などについて別の視点から知る「りかのたまてばこ」がある。（5年P. 32，6年P. 175）」 ・結果をもとに考察をすることを促す問いかけを掲載している。（6年P. 160）	・「サイエンスワールド」では中学校で学ぶことと題して発展的な内容が掲載してある。（4年P. 97） ・センサーを使ったプログラミングの活動を紹介することで，プログラミングの活動が体験することができる。（6年P. 176）	・具体的にノートの記録例を掲載している。（4年P. 60） ・結果の整理や学習の定着を確認する一助として巻末に「たのシール」が付いている。(3年) ・「ふりこ」でグループごとの結果をクラス全体でグラフに表しているイラストがある。（5年P. 134）	・児童の話し合いの例が「予想しよう」「計画を立てよう」の場面で吹き出しにして明記している。（4年. P50） ・児童の考えを「考えよう」で吹き出しにして明記している。（3年P. 158） ・5，6年において，単元末「学んだことを生かそう」において，学んだ知識と身近な生活との関わりを考え，説明する問題を取り上げている。

学図	・単元内や巻末に，観察の仕方や実験器具の扱い方等がある。（4年 P. 130, P. 190-201） ・単元末に「まとめてみよう」のコーナーと「できるようになった」コーナーがある。 ・安全に実験や観察を行うポイントを「注意」という見出しで書いている。（5年P. 125） ・画像，動画，資料などのコンテンツを用いて，実験器具の操作等基礎的・基本的な技能を紹介している。	・4年において，単元に入る前に，「調べていこう」というコーナーで学習の大まかな流れが記載されている。 ・実験から結果，わかったことまでが見開きにあり，実験する前から結論が分かる。（3年P. 108-109） ・「資料」で，日常生活との関連付けを図っている。（5年P. 34） ・問題解決後には，学んだことを生かして日常生活の事象などについて関連付けて考える場面がある。（6年P. 167） ・単元導入と単元末に同じ問いかけを掲載している。「考察（6年P. 90）」	・「結果」「結果から考えよう」「結論」までを詳細に書いている。更に，『学びを広げよう』で，発展的な考え方を扱う部分がある。 ・プログラミングコンテンツを活用して，コンピュータやタブレットでプログラミングを体験することができる。（6年P. 194）	・自然（季節の移り変わり）に関する写真は，並列的に掲載している。（4年 P. 68 - 69） ・「結果」や「結果から考える」は次の問題等を詳しく書いている。（3年P. 98-99） ・「発芽と成長」でグループごとの結果をクラス全体で表に表し，ほかのグループの結果も合わせて考えさせている。（5年P. 24） 「電磁石」と「ふりこ」でも，同様に結果をグラフに表している。（5年 P. 13, P. 132） ・巻頭「〇年生で学ぶこと」では，理科における「見方」を領域ごとに示している。（6年P. 2）	・4年において，単元の学習課題を設定する前に，問題を見つけようという話し合い活動があり，その中に吹き出しも示されている。 ・「できるようになった」で，児童の話し合いが吹き出しで書いてある。（3年 P. 103） ・単元末の「まとめてみよう」の「活用」問題で，説明させる活動を位置付けている。（5年P. 77） ・6年において，単元末「できるようになった」において，単元冒頭で示した「資質・能力マーク」に対応する形で学んだ内容を説明する場面を設定している。

教出	・教科書の裏表紙に『理科の安全の手引き』が掲載している。 ・単元の中で，実験器具の扱い方や操作方法等を掲載している。(5年P158-159) ・巻頭に「学習の進め方」や「ノートのとり方」を掲載している。（3年P. 10-11） ・安全に実験や観察を行うポイントを「きけん」という見出しで書いている。（5年P. 153） ・動画やリンク集を用いて，実験器具の操作実験器具の操作等基礎的・基本的な技能を紹介している。 ・分からなかったときに振り返るページが掲載されている。（6年P. 27）	・単元に入る動機付けの部分が，生活に密着したものである。（4年P. 156） ・問題の前に「見つけよう」コーナーで問題の予想（見通し）を行うように掲載している。（6年P. 88） ・「資料」や「科学のまど」で，日常生活との関連付けを図っている。（5年P. 144, 5年P. 170） ・問題解決後には，学んだことを生かして日常生活の事象などについて別の視点から知る場面（「資料」）がある。　（6年P. 189） ・単元導入と単元末に同じ問いかけを掲載するとともに，結果をもとに考察をすることを促す問いかけを掲載している。「考察（6年P. 108）」	・「結果」「結果から考えよう」「結論」までが詳細に書いてある。更に，『学びを広げよう』で，発展的な考え方を扱う部分がある。(3年P. 170-171) ・巻末に「つくってあそぼう」コーナーがある。(3年P. 190-195) ・Ｗｅｂサイトソフトのリンクを紹介してプログラミングを体験したり，コラムを掲載したりしており，プログラミング的思考について知ることができる。（6年P. 212） ・算数科で学んだことを活用する「算数とのつながり」がある。(5年P. 164)	・学習の導入場面の写真が生活場面に即している。 ・鉄腕アトムのキャラクターが，学習活動の流れを導いている。 ・重要な理科用語に太字と黄色のマーカーがある。 ・「発芽と成長」でグループごとの結果をクラス全体で表に表し，他のグループの結果も合わせて考えさせている。（5年P. 30, P. 48）「ふりこ」と「電磁石」でも，同様に結果をグラフに表している。（5年P. 110, P. 162） ・子どもキャラクターによる例示で「見方」を働かせる姿を示したり，先生キャラクターの問いかけで「考え方」を働かせる子どもの姿を表現したりしている。（6年P. 171, 176）	・『学びを広げよう』で，理由を説明させる箇所がある。(6年. P113) ・「関係づける言葉」という吹き出しがあり，思考を深める発言の仕方が掲載されている。(3年P. 178) ・単元末の「たしかめ」の中の問題で，説明させる活動を位置付けている。（5年P. 51） ・6年において，単元末「たしかめ」において，学習内容を身のまわりの現象や日常生活に当てはめて考え，説明する場面を掲載している。

啓林館	・巻末の「フムロウはかせの資料室」では，観察ノートの書き方や実験器具の使い方，ものづくり広場等が掲載してある。 ・単元末に「たしかめよう」「活用しよう」のコーナーがある。(3年P. 136, 5年P. 94) ・安全に実験や観察を行うポイントを「注意」という見出しで書いている。（5年P. 159) ・6年において，画像，動画，資料などのコンテンツを用いて，実験器具の操作等基礎的・基本的な技能を紹介している。	・問題解決の過程を５つのステップで分けている。(4年P. 115-116) ・単元の導入の写真がダイナミックである。その中に「思い出してみよう」の吹き出しがあり，既習の体験を想起させるように導いている。(3年P. 82-83) ・「理科の広場」，「つなげよう」で，日常生活との関連付けを図っている。（5年P. 21, 5年P28-29) ・問題解決後には，学んだことを生かして日常生活の事象などについて関連付けて考える場面がある。「理科の広場（6年P. 178）」 ・単元導入と単元末に同じ問いかけや結果をもとに考察をすることを促す問いかけを掲載してある。「考察しよう（6年P. 156）」	・単元末に「たしかめよう」「活用しよう」「つなげよう」と発展的に学習が進むよう示してある。（4年P. 122-123) ・巻末に「理科につながる算数のまど」がある。(3年P. 172-173) ・「理科の広場」が中学校への学習の発展へとつながる。(3年P. 132) ・教科書付録を活用したり，シミュレーターを使ってＰＣやタブレットでプログラミングを体験することができる。（6年P. 182)	・単元末に「ふり返ろう　まとめノート」でまとめ方の例が大きな文字で書いてある。(4年P. 121) ・「ふりかえろう　まとめノート」は，大きな文字や図で書いてある。 ・「発芽と成長」，「ふりこ」，「物のとけ方」でグループごとの結果をクラス全体で表に表し，ほかのグループの結果も合わせて考えさせている。（5年P. 14, P. 124, P. 142) ・予想と計画のふきだしや巻末の「〇年の理科をふり返ろう」に「見方」を示したり，巻末に「理科の考え方をはたらかせよう」として「考え方」について説明している。（6年P. 198, P218-219)	・「予想と計画」「結果から考えよう」のコーナーを中心に吹き出しで複数の児童の考えが掲載してある。(4年P. 138-140) ・「問題をつかもう」で，児童の話し合いの様子が吹き出しで書いてある。(6年P. 54) ・単元末の「たしかめよう」の中の「活用しよう」で，説明させる活動を位置づけている。（5年P. 27) ・単元末「活用しよう」において，日常経験と学習内容とを結びつけて考え，説明することで知識・技能の定着をはかる問題を扱っている。

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　生活

	観点１ 基礎･基本の定着 〇教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫 〇問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量 〇伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 〇教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現･表記 〇有効なさし絵・地図・図表などの資料等 〇児童にとって親しみやすい表現・表記	観点５ 言語活動の充実 〇教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・対象と十分に関わりあう時間を確保できるよう，身近で取り組みやすい学習活動や学習材を重点的に取り上げている。 ・身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉えられるよう，児童が身近な人々，社会及び自然と関わる姿を，写真や挿絵で多様に示している。 ・自分で学習や生活を振り返る自己評価や，友達と互いのよさを認め合う相互評価の場面を設けている。（下巻P. 80） ・生活上必要な習慣や技能を，学習活動の展開に即して身に付けるためのヒントや資料を，「やくそく」や巻末の「かつどうべんりてちょう」に掲載している。（上巻P. 69, 下巻P. 75）	・単元導入のページで児童の写真を使用し，学習内容に興味・関心を高めている。 ・気付きを確かなものとしたり，気付いたことを関連付けたりする表現活動や交流活動の中での主体的・対話的で深い学びの姿を「学びをふかめる」などに示している。（下巻P. 53） ・単元や年間を通して，主体的・対話的で深い学びを実現している姿を，上下巻を通じて成長する挿絵の登場人物で具体的に示している。 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うための，教師の言葉かけや環境構成，板書などの例を，挿絵や吹き出しで示している。（上巻P. 36） ・ワークシートの書き方や，「みつける」「くらべる」「たとえる」などの多様な観察をしたワークシートの例を「かんさつずかん」で示している。（上巻P. 34）	・写真や絵を活用して，昔から伝わる伝承遊びや，草花遊び，伝統行事，節気や節句の行事などを，単元の流れや季節に合わせて示している。 ・児童の発達の段階や特性を踏まえ，関わる対象や，思いや願いの質，育成する資質・能力などが，上巻と下巻で段階的に高まるように単元を構成している。 ・国語科や算数科，音楽科，図画工作科，体育科，道徳科，特別活動との関連的な指導のヒントや，関連を図った学習活動例や表現活動例を示している。（下巻P. 53）	・学習活動に即して活用する「ずかん」や，習慣や技能，学び方を身に付けるための「かつどうべんりてちょう」，好奇心を刺激する特設ページ，そのまま取り外せる原寸大の動植物図鑑「ポケットずかん」を掲載している。 ・正しい文字の形を保ちながら，読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・児童向けの文章をすべて文節で分かち書きし，読みやすさに配慮している。 ・単元や年間を通して，主体的・対話的で深い学びを実現して成長していく登場人物がいる。	・思いや願いを実現していく学習の過程で，児童が思考・判断・表現をしている姿を，挿絵や吹き出し，表現作品などで示している。（下巻P. 87） ・「みつける」「くらべる」「たとえる」「ためす」「みとおす」「くふうする」など，気付いたことを基に考えるための多様な活動例を，写真や挿絵，吹き出し，表現作品などで示している。（下巻P. 50-51）

大日本	・上下巻とも，公共の施設の人，身近な地域の人，子供同士などいろいろな人々とかかわっている写真を掲載している。写真を小さくしたり枚数を少数に絞って余白を確保し，そこに人との接し方や会話，挨拶の言葉などを示したりしている。	・すべての単元導入は，見開き2ページの大写真1枚と単元名のみの構成になっている。	・季節ごとに行われる地域の行事や，日本ならではの風物詩や遊びを掲載している。 （上巻P. 43, 61, 79, 80, 下巻P. 47）	・全活動において，本時の活動やめあては，橙色の風船マークの中に示している。	・右端に「はなしかためいじん」「ききかためいじん」や発表の話型を示している。（上巻P. 15）
	・大単元が4つの季節で構成されており，それぞれの単元への導入が，同じ場所で季節が分かる見開き2ページの大写真になっている。小単元の構成順も季節に沿った順になっている。（上巻）	・木，キノコ，ドングリの3つのキャラクターが，吹き出しで，子供たちに問いかけている。	・他教科との関連が深い活動には，関連を示す他教科名を示したイラストがある。（上巻P. 70, 下巻P. 40）	・生き物単元では，写真やイラストで動植物の名前を示す図鑑ページを掲載したり，植物の芽，花，種を写真で右端縦に並べて掲載したりしている。（上巻P. 103）	・右端に「きらきらことば」を設け，友だちと接するときの言葉を示したり，「せいかつことば」を設け，様々な言葉を紹介したりしている。（上巻P. 57）
	・巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に自分の安全を自分で守るために気を付けることを，場面ごとにまとめている。（上巻P106-109）	・気付いてほしいことや疑問に思ってほしいことがイラストの子供たちの吹き出しに示されており，写真よりイラスト表記の方が多い。（上巻P. 68-69）		・ページごとにイラストのタッチを変えている。	・児童の発言の板書例や話し合いの形態を示している。 （上巻P. 66, 94, 下巻P. 94）
	・木，キノコ，ドングリの3つのキャラクターが，吹き出しで，安全や衛生面についての声掛けをしている。（下巻P. 77, 92）	・活動後の感想や気付きをまとめる振り返りとして，ワークシートの例を1枚ずつ掲載している。			・巻末「がくしゅうどうぐばこ」に，しらべ方，つたえ方のスキルを示すページを掲載している。（下巻P. 130-133）

学図	・「がっこうだいすき」「がっこうたんけん」の単元を設け，スタートカリキュラムを位置付けている。発達段階を考慮し,イラストと短文のみで構成している。（上巻P. 1-7）	・下巻では「まちたんけん」で見付けたものを，「あの人に会いたいな」の単元につなぎ，深く調べるという課題解決的な構成になっている。	・草花を使った遊びや昔の遊びを掲載している。（上巻P. 46-47, 66-67, 80-81）	・単元全体を4つの段階に分け「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」と児童の関心を高める語句にしている。	・巻末の「まなびかたずかん」のページで多様な表現方法を示し,ワンポイントアドバイスで具体的に表現活動ができるように工夫している。
	・「ものしりノート」で，しっかり教える場を設定している。（上巻P. 66-67）	・見開き左上に，めあてと子供の言葉がある。（下巻P. 38）	・下巻「まちのきせつ」では,日本各地の春夏秋冬の伝統行事を写真で掲載している。	・記録カード類が児童の作品である。教師の評価も掲載してあり,子供の気付きを価値付けている。	・観察カード,計画カード,インタビューカード等について,カードごとに記入方法の視点を示している。（上巻P. 120）
	・生活のきまりや安全，公共のマナーについてイラストを見ながら理解できる。（下巻P. 12-13）	・単元末には，単元で学習したことを基に解決し，まとめる内容を構成している。（下巻P. 24）	・上下巻とも「探検」「栽培」「遊び」「飼育」「成長」の構成になっている。	・写真とイラストで活動の流れを示している。	・ユニバーサルデザインに配慮した色遣い，,記号やマークをシンプルにしている。
	・4人のキャラクターのつぶやきから，生活科の見方・考え方を生かせるようにしている。（下巻P. 53）	・具体的な活動や体験を通して，課題解決できるように促している。	・本文の見出し，カードの位置をそろえている。	・単元導入では，児童の意欲を高めるために，児童が楽しく活動している写真を見開き2ページに掲載してる。	・自分の成長に気付くように,振り返りを充実させている。（下巻P. 68-69）
	・巻末の「まなびかたずかん」では，生活上必要な習慣や技能が身に付くように工夫している。 ・友だちとの対話から分析的に考える力や創造的に考える力の基礎を養う構成にしている。（下巻P. 84-85）	・公共の図書館の活用を取り上げ，主体的に調べ学習ができるようにしている。（下巻P. 26-27）	・理科との関連単元(上巻3単元　下巻3単元) ・社会科との関連単元(上巻1単元　下巻2単元) ・国語科,算数,図工,音楽等,他教科との関連や接続を図っている。（上巻P. 33, 下巻P. 65）		・上巻では対話を,下巻では人・本・インターネット等の多様な情報源を重視している。（上巻P. 45, 下巻P. 61）

教出	・上巻は子ども同士のかかわりを中心に写真を掲載しており，下巻から地域の人，公共の施設の人々と関わる様子を写真で掲載している。余白がないほどの写真数である。	・すべての単元導入は，きっかけとなる子供の言葉と先生からの問いかけで始まっている。（下巻P. 24）	・季節ごとに行われる地域の行事や，日本ならではの風物詩や遊びを掲載している。（上巻P. 61, 103, 下巻P. 4, 58, 82, 102）	・左上部に本時の活動を桃色で示し，カラフル下線の横に資質・能力を示すサイコロを掲載し，その下に本時のめあてを示しており，全ページにおいて構成を統一している。	・右端コラム「できるかな」の欄で，人と関わる際の言葉を示している。（下巻P. 65）
	・単元構成の順は季節順ではなく，栽培，生き物，家族等のテーマ毎にまとまった構成になっている。	・見開き2ページが1つの学習内容になっており，左上部のめあてや課題とともに，その横に身に付けたい6つの資質・能力をサイコロで表示している。（下巻P. 26）	・巻末「まなびのポケット」には，関連する他教科名を示している。（下巻P. 121）	・植物単元では，植物の種，芽，つぼみ，花，種を写真で見開き下部に並べて掲載している。（上巻P. 34-39）	
	・巻末の「学びのポケット」に自分の安全を自分で守るために気を付けることや，道具の使い方を，場面ごとにまとめている。	・？のキャラクターマークが，場面ごとに考えてほしい具体的な問いかけをしている。（上巻P. 41）	・右端のコラム「はってん」で，理科や社会科へのつながりを示している。（下巻P. 87）	・イラストで登場する25人程度の子供たちが活動ごとに全員登場し，イラストのタッチも統一されている。	・児童の発言の板書例や話し合いの形態を示している。（上巻P. 87, 99, 120, 下巻P. 8, 38, 62, 72, 106）
	・見開き右ページ，右端にコラム欄を設け，「やくそく」「できるかな」で，安全，衛生，マナー，ルールについて注意を喚起している。また，外での学習の際には，コラム欄の横に「てあらいうがい」マークを記載している。（上巻P. 75）	・単元ごとに振り返りページ「なにをかんじたかな」を設定し，板書や制作物，ワークシート，具体的な子供の言葉等の表現活動を例示している。 ・振り返りページに自己評価として，「まんぞくはしご」や書き込み欄を設けている。（上巻P. 69）	・単元構成の順は季節順ではなく，栽培，生き物，家族等のテーマ毎にまとまった構成になっている。	・黒いキャラクター「いぐら」が随所に登場し，疑問をつぶやいている。（上巻P. 38）	・巻末「まなびのポケット」に，見たり考えたりする時の表現，記録の仕方，伝え合いの仕方，調べ方，まとめ方などのスキルを示すページを掲載している。（上巻P. 128-131, 下巻P. 118-127）

光村	・「あたらしいいちねんせい」で幼稚園教育指導要領に示された幼児期の10の姿を踏まえたスタートカリキュラムを構成している。（上巻P. 4-11）	・体験活動，表現活動を繰り返す構成にして，学び方を具体的に示している。（下巻P. 64，86）	・季節に沿った単元構成になっている。	・イメージがわくようにイラストが具体的である。	・ユニバーサルデザインを配慮した色遣い文字の大きさ，書体である。
	・巻末の「ひろがるせいかつじてん」では，防災・安全，生活上必要な習慣を掲載している。（上巻P. 138-139，下巻P. 98-99）	・巻末に自己評価に活用できるシールを付け，自分の学びを振り返ることができる。	・日本各地の祭りを写真で紹介している。（上巻P. 60）	・児童に期待や意欲を抱かせるような児童作家　工藤直子さんの詩を巻頭と巻末に掲載している。	・巻末の「ひろがるせいかつじてん」のページで，体験方法と表現活動を9例ずつ掲載している。
	・画面構成を統一しているので，比較して考えることができる。（上巻P. 46-47，100-101）	・課題設定，情報収集，まとめるといった課題解決学習のスタイルを設定している。（下巻P. 90-91）	・ウエブサイトでは47都道府県の四季の伝統行事を紹介している。（下巻P. 112-122）	・観音開きで四季の自然の変化を同時に比べられる。（上巻P. 107-110）	・○○に（どこに）そのまま使用できる記録カードを例示している。
	・導入を大切にし，自分との関りを考えるタイトルにしている。	・学び方が分かるように，ホップ（見つける）・ステップ（活動）・ジャンプ（深める）で構成している。（下巻P. 64，86）	・理科との関連単元（上巻5単元，下巻3単元） ・社会科との関連単元（上巻1単元，下巻2単元）	・イラストや絵が多い。	・表現活動の場面では，児童が効果的な表現方法を選択できるよう多様な表現活動を例示している。（下巻P. 74-75）
	・活動して終わりではなく，全単元とも学びを交流する時間を設定している。（上巻P. 84-85，下巻P. 72-73）	・日常生活の想起から，児童が目標をもって学習に取り組めるようになっている。（下巻P. 36-41）	・国語科，図工，算数，音楽等他教科との合科の例を掲載している。（上巻P. 69　下巻P. 90，91）		・思考力を育むために「どうすればコーナー」で，児童自らが考えられるようにしている。（上巻P. 36）

啓林館	・見る，聞く，触れる，作る，探す，育てる，遊ぶなどして対象に直接働きかける学習活動を豊富に紹介している。	・単元導入を「わくわくの扉」と「わくわくボックス」の4ページで構成し，「～したい」という思いや願いを高めることで，児童自身が学びの見通しをもてるように構成している。（上巻P. 20-23）	・日本の文化や季節の変化のすばらしさを感じられるよう，季節の行事や歌を例示している。また，伝承遊びに触れられるよう，写真で例示している。また，動画を閲覧できるようQRコードを付けている。（下巻P. 56）	・学習活動に即して活用する「がくしゅうずかん」を掲載している。	・国語科や書写で学習したことを生かした，作文・新聞・招待状・説明文・パンフレット・ポスター・俳句などの多様な表現物を記載している。（下巻P. 90-91）
	・身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，よりよい生活に向けて思いや願いを実現していこうとする児童の姿を，写真や挿絵で多様に示している。	・直接体験を通した児童の発見や感動を，写真・イラスト・カード・本文・キャラクターの台詞で表現し，気付きに目が向くように配慮している。（上巻P. 26-27）	・上巻は主として学校を，下巻は主として地域を活動の場とし，学習指導要領の９つの内容を児童の発達段階を考慮して配列している。	・本文などの基本的な文字のフォントは，ＵＤフォントを採用し，誰もが見やすく，読み間違えが少ないよう配慮している。	・相手のことを想像して，伝えたいことや伝え方を自己決定できるように，巻末資料の「がくしゅうずかん」に，まとめ方や伝え方を示した資料を掲載している。
	・児童の作品やキャラクターの発言，カード類において，自分の成長や相互評価の例が取り上げられ，評価につながるように配慮している。	・「次はこうしたい」，」「もっとこうしたい」という思いや願いが紙面右下の「めくり言葉」に例示され，児童の活動の連続性・広がりをサポートしている。	・国語科や算数科，音楽科，図画工作科，体育科，道徳科などの各教科等の学習で育成を目指す資質・能力との関連を考慮し，他教科との関連がある具体的な活動には，合科的・関連的な学習活動を示すマークを付けている。	・児童の発達に配慮し，読みやすくするため文章が短く区切られている。	
	・児童が自己評価する際の視点の例となるように，単元末「ぐんぐん」紙面の「できるかな　できたかな？」コーナーが掲載されている。（上巻P. 17, 下巻P. 25） ・巻末資料「がくしゅうずかん」には，調べ方・記録の仕方・話し合いの工夫・まとめ方などが一連で示されたり，用具の使い方・安全上の注意などが示されたりして，基本的な知識及び技能や学び方が身に付くようになっている。	・児童の思考を促したり，学習を方向付けたり，気付きの質を高めたりする教師の支援の例を示している。（下巻P. 30） ・ワークシートの書き方や，発見したことを詳しく書くための視点，言葉の例などを示している。（下巻P. 112）		・気付きのヒントや安全上の留意点などをキャラクターを用いて示している。（下巻P. 47）	

日文	・育成すべき三つの柱を見開き左ページ下の同じところに配置している。	・学び方が一目でわかるようなタイトルをつけている。	・スタートカリキュラムに関連するページの角を，丸くカットしている。	・学習の目当てを記号で示している。	・多様な表現方法や話し合いの場を板書を中心に例示している。（上巻P. 34, 下巻P. 98）
	・導入での活動の見直しと振り返りを重視している。	・学びを実生活や実社会につなぐ手立てがイラストや絵で示している。（上巻P. 57, 下巻P. 99）	・3年生以降の学習に生かせる活動を取り入れたり，ページを付けたりしている。（下巻P. 110-111）	・写真，イラスト，図，キャプション，吹き出し等を用いて，考えるための技法と関連付けている。	・巻末の「ちえとわざのたからばこ」で，まとめ方，インタビューの仕方，手紙の書き方等を具体的にイラストでわかりやすく示している。（上巻P. 116-119）
	・「いちねんせいになったら」が幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に対応している。	・植物の成長が一目でわかるように「たね」「は」「つぼみ」の時の写真を見比べることができるようにしてある。（上巻P. 38, 40, 42, 44）	・「きせつのあそびずかん」で昔の遊びや自然のものを使った遊びを掲載している。（上巻P. 112-113）	・ユニバーサルデザインで児童が親しみやすいイラストである。	・配色や書体にユニバーサルデザインを配慮している。
	・巻末の「ちえとわざのたからばこ」で，自然や生活において必要な知識や技能，習慣を掲載している。	・主体的に学習できるよう参考になるページをページ右上に掲載している。	・理科との関連単元（上巻5単元　下巻2単元） ・社会科との関連単元（上巻1単元　下巻2単元）	・季節の変化とくらしを植物・野菜・魚・くらしの4項目にまとめ，見開き2ページに掲載し，一目で分かるようにしている。（下巻P. 126-127）	・「はなしかた」を「はなしかたのかきくけこ」に，「ききかた」を「ききかたのあいうえお」にまとめている。（上巻P. 128）
	・「考えるわざ」のページで，学習方法，技能面の基礎を習得できるように工夫している。（上巻P. 130）	・教科書の使い方の説明のページがある。（上巻P. 2-3）	・国語科，音楽，図画工作，道徳科との関連を図り生活科と他の教科との学びを活かしている。（上巻P. 48）		

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　音楽

	観点1 基礎･基本の定着	観点2 主体的に学習に取り組む工夫	観点3 内容の構成･配列･分量	観点4 内容の表現･表記	観点5 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
教出	・共通教材については，目標が示されていない。	・表紙裏のページは，低学年は目次，高学年は音楽に関係した世界で活躍する人物を紹介したページとなっている。	・既習曲等の音階を基にした学習の構成となっている。（4年P.22-23,P.48-49）	・透明シートを使い，かくし絵本のように構成している。（5年P.31）	・音楽づくりや鑑賞したことをまとめる活動の中で，音楽の仕組みを聴き取り，話し合いの視点を記述する欄がある。
	・共通事項に示された「音楽を形づくっている要素」を共通教材以外のページの右上に記している。（全学年）また，「音楽を形づくっている要素」の気付きを書くメモの欄がある。	・「学びに役立つ情報」として，ウェブコンテンツが用意されている教材について，サイトへのリンクがQRコードで示されている。（3年P.54-55）	・教科書の大きさは，中・高学年は，低学年より大型である。低学年78ページ，高学年80ページである。	・折込を使ったワイドな紙面で写真を示したページがある。（6年P.8-9）	・「音楽を表す言葉」が一覧となって示している。（2-6年）
	・楽器の演奏法について写真や挿絵入りで示されている。（全学年）	・「まなびナビ」と題して，学びのプロセスを示している。	・日本の音楽を1つの題材内でまとめて扱っている。（5年題材④）	・最後に観音開きにして，低学年は「楽器図鑑」，中・高学年は「音楽を形づくっている要素」「楽典」「リコーダー運指表」のページがある。	
	・2年以上の導入部分に，「スキルアップ」と題して，常時活動例が示されている。	・英語の歌唱曲が全学年に1曲ずつある。	・題材は，題材名も含めて全学年同じ配列順に構成されている。	・1年～3年8種類のマークを付し，学習内容を示している。 ・4年～6年9種類のマークを付し，学習内容を示している。	
	・リコーダーの音域について、3年は，レ～高いレまでであり，4年は高いミまで示している。	・楽器の奏法について，自由な発想で楽器演奏を楽しめるアイディアが紹介されている。（6年P46-47）	・鍵盤ハーモニカの導入部分のページに8ページ，リコーダーの導入部分に，8ページ割いている。		
	・3年までは，拍子を意識した活動があり，4年で4分の2拍子・3拍子・4拍子を学習する。				

教芸	・すべての題材，教材において目標が示されている。	・表紙裏のページは，低・中学年は「1年間でこんな学習をする」と示したページで，高学年は音楽に関係した世界で活躍する人物を紹介したページとなっている。	・題材全体の中で，表現と鑑賞の関連を図っている。(全学年)	・全学年最後に，「1年間の学習内容」が題材のまとまりごとに学習したページ番号付きで示されている。	・鑑賞したことをまとめる活動の中で，聴き取りと話し合いの視点を文章で記述する欄がある。
	・目標達成のための支援となる活動文がある。	・学習に資する参考資料等をウェブ上で見ることができるようQRコードが示されている題材がある。(4年P.9)	・教科書の大きさは，全学年同じである。低学年83ページ，中・高学年87ページである。	・5種類のマークを付し，学習内容を示している。	・学習のねらいの達成に向けて考えてほしい内容や，発言の例を吹き出しで示している。
	・共通事項に示された「音楽を形づくっている要素」を全ページ，右下に記している。(全学年)	・英語の歌唱曲が1曲ずつある。(3-6年)	・題材の前後で関連がある内容になるよう配列してある。(高学年題材⑥⑦)		・感じたこと，気付いたこと，楽器を選んだ理由等，根拠や気付きを記述する欄を設けている。
	・楽器の演奏法について写真や挿絵入りで示されている。(低，中学年)		・題材は，題材名も含めて全学年同じ配列順に構成されている。		
	・リコーダーの音域については，3年は，ドから高いレまで，4年は高いソまで示している。 ・リコーダーの手入れの仕方について記述がある。(3年P.21)		・鍵盤ハーモニカの導入部分のページに12ページ，リコーダーの導入部分に，8ページ割いてある。		
	・2年までは，拍子を意識した内容があり，3学年で4分の2拍子・3拍子・4拍子を，4年では，8分の6拍子を学習する。		・共通教材のもととなった曲についても鑑賞するよう，発展的な学習内容も掲載されている。(6年P.48-49)		

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　図画工作

	観点１ 基礎･基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
開隆堂	・各題材で育てたい資質・能力に対応させて3種類のマークで示している。その題材で一番大切にしたいめあてを文章で示し，下線を引き色を変えて示している。 ・すべての学年において巻末に「造形の引き出し」を８ページ設け表現に必要な用具の扱い方や技法，材料についてイラストや写真を使って説明している。特に安全面について注意喚起の説明がある。さらに使い方を動画で見るためのＱＲコードがある。 ・使用する道具の使い方について題材のページにも写真や絵で示してある。（12年下P. 41 34上P. 40-41　56年上P. 22） ・「くふうさん」が形や色，方法や材料を知って工夫することができるヒントを，「ひらめきさん」が発想，構想のヒントを示している。	・「ひらめきコーナー」では，発想を広げ，主体的に造形活動に取り組むためのヒント（材料の特徴を生かした作り方）を掲載している。（各学年P. 18-19） ・発想の手掛かりとなる工夫や気付き，思考の内容を，製作している児童の写真に吹き出しをつけて示している。 ・各題材名の下に，活動のきっかけになる文を，「～しよう」と児童に語りかけるような言葉で示している。 ・各学年に鑑賞教材が取り上げられており，テーマに沿った児童作品や，各国の多種多様な作品が掲載している。 ・美術館鑑賞の仕方が掲載されており，美術館での過ごし方や作品鑑賞のポイントを説明している。（56年上P. 56-57）	・すべて学年の項目において題材を5項目に分類して配列している。掲載した作品等にサイズを明記している。 ・「道徳の内容」と関連した題材を設定している。「主として集団や社会とのかかわりに関すること」に関連して写真が示してある。（12年下P. 10-11，34年下P. 16-17，56年下P. 16-17） ・他教科との関連を図りつつ伝統文化や国際理解についての教育の充実に関する作家や児童の作品を，「みんなのギャラリー」(全学年)や「つながる造形」(56年上下44-47)のコーナーに掲載している。 ・コンピューターを活用しようのコーナーでプログラミング学習の基礎になるＩＴ機器を活用した作品例を示している。(56年上P46-47，56年下P. 57）	・作品について，題名に続けて「」に作者の製作の意図や工夫したところを簡潔に示している。 ・児童の活動の写真とともに，児童のつぶやきを短い文で吹き出しにして，1題材につき2程度示している。 ・文字色の数が少ない。吹き出しなどの文字の部分の下地は白色になっている。 ・低学年では特に，単元のページに作り方や用具の使い方の説明を図解で入れたり，製作の順序を写真で示したりしている。(12年下P. 34-35, 34年下P. 42　他） ・他教科との関連がページの下部（「あわせて学ぼう」）に示している。	・友達と話しながら学習の振り返りを行うために，ページ最後の「ふりかえり」で目標に対応した話し合いの視点を「～かな」という問いの形で示している。 ・言語活動につながる鑑賞の目標を具体的に示している。（56年上下P. 30-33） ・コミュニケーションをとりながら作品を製作していく題材を取り入れ，アイデアを出し合う様子を吹き出しで示している。(34年下P. 28-29, 56年下P16-17） ・「みんなのギャラリー」では，児童同士，地域の方などと，対話を通して思考力を働かせ，学びを深めていく場面が掲載されている。

	・学習のめあてを資質・能力の3つの視点に基づいて設定し，3種類のマークを使ってそれぞれのめあてを文章で示している。	・「ひらめきポケット」で，身近なものを並べたり組み合わせたり見方を変えたりして色や形を見付けさせるための写真を示している。（各学年P.34）	・すべて学年の項目において題材を５項目に分類して配列している。掲載してる作品等にサイズを明記している。	・作品について，付箋を模った枠に作者の意図を詳しく示している。	・全題材において，活動の後で友達と話しながら学習の振り返りを行うことができるように，考えてみることの視点がページの右下に示している。
	・すべての学年において巻末に「使ってみよう材料と用具」８ページを設け，表現に必要な用具の扱い方や技法，材料について，イラストや写真で作業の流れに沿って説明している。また，用具や材料と関連がある題材を示している。	・ほぼすべての題材で，製作している児童の写真に吹き出しを付けて児童の思いや感じ方を示している。	・「道徳の内容」と関連した題材を道徳マークで示し，どの教科書にもA～Dの内容項目に関わる題材を設定している。	・児童の活動の写真とともに，作品製作に関わる児童のつぶやきを吹き出しにして1題材につき５つ以上示している。	・言語活動につながる鑑賞のめあてを「～かな」と問いの形で示している。さらに，作品を見る視点を作品ごとに細かく吹き出しで示している。（56年上P.16-17）
日本文教出版	・使用する道具を使っている様子が題材のページに写真で示している。（12年下P.24　34年下P.54　56年下P.20 ）	・各題材名の下に，「～かな」と問いかける形で児童の発想のきっかけになる文を示している。	・「図画工作のつながり広がり」のページで，環境，防災，平和など，持続可能な社会，多文化共生などとのつながりのある作品展示の写真を「校内で」・「野外で」・「地域で」の場ごとに掲載している。	・学習に必要な用具の一覧，つながりのあるページの案内，安全・片付けのポイント，道徳との関連，振り返りの視点を，ページの下部にマークや文章で一列に配置している。	・ほとんどの題材で，児童がコミュニケーションをとりながら造形活動を行う様子が写真と吹き出しにより示してある。
	・製作過程が分かるように写真を多く掲載し，「ちろたん」が共通事項に関連した表し方のヒントを伝えている。	・テーマに応じた表現に結びつくように全学年で鑑賞教材が取り上げられており，低学年までは身近なものや児童作品を中心に，高学年では作家の作品も取り上げて掲載している。	・IT機器を使って児童が表現や鑑賞活動を行う様子が掲載したり，「使ってみよう材料と用具」のコーナーでIT機器の活用の仕方が説明したりしている。（56年上P.28-29）（56年下P.63）	・色のコントラストや文字の大きさを発達段階に応じて変えている。	・「図画工作科のつながりひろがり」では，児童と保護者，地域の方などと，対話を通して思考力をはたらかせ，学びを深めていく場面が掲載されている。（56年上P.54-57，56年下P.54-55）

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　家庭

	観点１ 基礎･基本の定着 〇教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫 〇問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量 〇伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 〇教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現･表記 〇有効なさし絵・地図・図表などの資料等 〇児童にとって親しみやすい表現・表記	観点５ 言語活動の充実 〇教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・巻末に「いつも確かめよう」として，家庭科の学習で身に付けさせたい基礎的な内容を18項目挙げ，掲載ページを示している。(P. 130～)	・オリエンテーションのページで，「学習の進め方」として問題解決的な学習の流れの型を示し，3ステップで全ての題材を構成している。	・他教科と関連を図ることのできる内容や，他学年，中学校との学習内容のつながりのある内容についてマークで示し，29個掲載している。(P. 10他)	・品質や環境についてのマークは，1ページにまとめてあり，具体物の写真を載せている。(P. 39) 　また，洗濯の取り扱い表示は，新旧の両方を表にして載せている。(P. 93)	・12題材で「話し合おう」を，全題材で「深めよう」の活動を示し，友達と意見交流する活動を設定している。(P. 15，22他)
	・器具や用具の基礎的な扱い方・技能の動画コンテンツがある。48項目(P. 17他Dマーク)	・巻頭で見方・考え方の四つの視点を示し，大題材のタイトル横に，「家庭科の窓」として各題材毎に家庭科の見方・考え方を示している。	・「日本の伝統」マークとともに，日本の食生活，家族・家庭，消費・環境生活など日本の伝統的な生活に関わる資料を14点取り上げ掲載している。(P. 12他)	・野菜を切る際の大きさの目安や，調理実習の技能において，実物大の写真を載せている。(P. 83，131-135)	・「調べよう」という項目を設け，調べる活動を6か所で示している。(P. 19他)
	・環境の保全につながる学習内容14か所に，環境マークが示してある。(P. 15他)	・学びを生活に生かすことを促す「生活を変えるチャンス！」を5か所設置し，授業で学習したことを家庭や地域で実践するときの進め方を示している。(P. 31他)		・包丁を使用する際の，写真や絵の注目すべき箇所に，赤，ピンクや青色の〇印がついている。(P. 18，112) 　また，布製作のポイントとなる過程には，図内に拡大した絵を加えている。(P. 101，103)	・教科書内に，書き込み用の二次元表等を載せている。(P. 7，19他)
	・安全面・衛生面で配慮すべき内容28か所に，安全マークをつけている。(P. 18他)	・リード文で大題材で学習する内容について示し，「学習の流れ」を掲載している。		・色覚問題研究グループぱすてるによる，色彩デザインの校閲を受け，カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮している。(P. 145・裏表紙) 　また，文字は，ユニバーサルデザインフォントを細字・太字共に採用している。(裏表紙・本文)	
	・巻末の拡大版ページに，実物大の写真を掲載している。(P. 131他)	・家庭科の学習でできるようになったことや分かったことなどを書き込む表がある。(P. 3)		・5Rについて，リデュース(減らす)，リユース(再使用する)，リサイクル(再生利用する)，リヒューズ(断る)，リペア(修理する)と表現している。(P. 56)	
	・実習のページには「できたかな」のコーナーを設けている。(P. 11他)				

	・裏表紙に野菜の切り方一覧表を写真で掲載している。	・オリエンテーションのページで，「家庭科学習の進め方」として問題解決的な学習の流れの型を示し，3ステップで大題材を構成している。	・他教科との関連を図ったり，他学年，中学校との学習内容のつながりについてマークで示し，43個掲載したりしている。(P. 12他)	・品質や環境についてのマークは，関連する題材の中で扱い，具体物の絵を載せている。(P. 33，62)	・「調べよう」「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」の見出しにより，比較・分類による思考や説明を促している。(P. 69，88，99他)
	・基礎的な技能や内容57か所に，ＱＲコードがある。	・巻頭で「生活の見方・考え方の四つの視点」を示しマークを設けている。見方・考え方に関わるキャラクターの吹き出し・マークがある。P. 36，122，126で，学習内容における見方・考え方を具体的に示している。	・「伝統」マークで，「和食・日本の伝統」に関わる資料を「チャレンジコーナー」の中で三つ掲載している。(P. 57他)	・実物大の手縫い作品を写真で載せ，寸法も添えている。(P. 25)	・「調べよう」「考えよう」「話し合おう」で，実生活での体験等の写真や絵を載せている。(P. 21，29，31他) 　また，ＱＲコードにより，参考動画も用意されているものもある。(P. 96，99)
	・環境の保全につながる学習内容9か所に，環境マークを示している。(P. 13他)	・学習したことを長期休業中に家庭や地域でも取り組める事例として「チャレンジコーナー」を5か所設置している。(P. 37他)		・ガスコンロ消火の際の元栓の絵に，赤い○印がついている。(P. 12) 　また，二つ穴ボタンのつけ方で，ボタン，布，糸との関係を絵と写真で説明している。(P. 24)	・各題材末の「生活に生かそう」では，自分の生活をどのようにより良くしていきたいか，短文で言語表記する欄を設けている。(P. 19，27他)
開隆堂	・安全面，衛生面等に配慮すべき内容25か所に，安全マークを添えて示している。(P. 17他)	・大題材の導入ページに三つのステップごとのめあてをまとめて提示し，チェック欄を設けている。		・日本色彩研究所による，カラーユニバーサルデザインの校閲を受け，色覚に配慮している。(P. 137，裏表紙)また，文字は，細字は明朝体を，太字はゴシック体を採用している。	・写真を分割して番号をつけた資料がある。(P. 29)
	・調理や製作などの実習手順図を，見開きページを使って掲載している。(P. 22他)	・大題材の導入ページをイラストや写真で始めている。		・5Rについて，リデュース(むだを減らす)，リユース(もう一度生かす)，リサイクル(資源として使えるようにする)，リヒューズ(受け取らない)，リペア(修理して使う)と表現している。(P. 32-33)	
	・実習のページには「できたかな」のコーナーを設けている。(P. 14他)	・小題材のタイトルが，「なぜ～だろう」という問いかけから始まるものが多い。(P. 10他)			

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　保健

	観点１ 基礎･基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成･配列･分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習，体験的な学習などを取り入れるなど，児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて，思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	【学習課題の示し方】 ・質問形式で課題を提示している。 ・課題意識を持たせるための写真やイラストを1ページ使用し掲載している。 【学習の動機づけ】 ・「気づく・見つける」というコーナーで，自分の生活を振り返って書く活動を設定している。（22か所） 【ICTの活用】 ・動画　手のよごれを調べよう（実験） ・動画　下着やくつ下のよごれを調べよう（実験） ・動画　手のあらい方 ・動画　空気のいれかえについて調べよう（実験） ・シミュレーション　わたしの身長ののび ・シミュレーション　男女の体つきの変化 ・動画　月経の仕組み ・動画　赤ちゃんのたん生 ・動画　スポーツ選手にインタビュー ・動画　体つくり運動 ・動画　5年生ならどうするかな ・動画　リラックス状態を体験しよう（実習） ・シミュレーション　危険な場面をさがそう ・動画　危険の予測と回避 ・動画　車の内輪差 ・動画　犯罪被害が起こりやすい場所 ・動画　さまざまな自然災害 ・動画　けがの手当をしよう（実習） ・動画　感染の仕方 ・動画　受動喫煙（実験） ・指導者用デジタルブックの収録	【導入の工夫】 ・単元の見通しを持たせるための記述があり，写真を掲載している。 ・ガイドキャラクターによるつぶやきによって，学習の流れを示している。 【課題解決の過程の扱い】 ・ステップ1「気づく・見つける」 ・ステップ2「調べる・解決する」 ・ステップ3「深める・伝える」 ・ステップ4「まとめる・生かす」 【まとめや振り返りの工夫（毎時間）】 ・各時間毎に「深める・伝える」というコーナーで，学習したことを活用して考え，記述する欄がある。 ・記述欄には，キーワードやこれから気を付けていくことやできそうなことを記入するようになっている。 ・各時間毎にキーワードを書き込む欄を1ページ設けている。 ・学習したことを生活に活かすための資料を各時間のまとめの欄に掲載している。 【まとめや振り返りの工夫（単元末）】 ・単元終末に学習のまとめのページが1ページあり，学習したことを振り返る欄や，活用することを記述する欄がある。	【単元や資料等の配列（ページ数）】 3年　1章　けんこうな生活(1) 1　けんこうというたからもの(6) 2　けんこうによい1日の生活(4) 3　体のせいけつとけんこう(4) 4　けんこうによいかんきょう(4) 学習をふり返ろう(1) 4年　2章　体の成長とわたし(1) 1　育ちゆくわたしたちの体(6) 2　思春期にあらわれる変化(6) 3　よりよく成長するための生活(4) 学習をふり返ろう(1) 5年　1章　心の健康(1) 1　心の発達(5) 2　心と体のつながり(4) 3　不安やなやみがあるとき(6) 学習をふり返ろう(1) 2章　けがの防止(1) 1　事故やけがの原因(4) 2　学校や地域でのけがの防止(4) 3　交通事故の防止(4) 4　犯罪被害の防止(5) 発展：自然災害によるけがの防止(3) 5　けがの手当(6) 学習をふり返ろう(1) 6年　3章　病気の予防(1) 1　病気の起こり方(4) 2　感染症の予防(4) 3　生活習慣病の予防(6) 4　喫煙の害と健康(4) 5　飲酒の害と健康(4) 6　薬物乱用の害と健康(4) 7　地域の保健活動(4) 学習をふり返ろう(1) 【他教科との関連】 ・単元開始のページで，「つなげよう」として，他教科との関連を示し，学習の見通しを持たせている。	【本文記述との関連】 ・「体の成長とわたし」での自分の成長を調べる活動において，イラスト・表・式・棒グラフで身長の伸びを確かめている。（4年P. 26） ・「けがの手当」での説明資料において，けがの種類・けがの説明・手当の方法を表記している。（5年P. 43） ・手当の方法では，ナンバリングを使って段階的に説明しており，その一つ一つにイラストを掲載している。 ・手当の際の注意点を表記している。	【自分の考えを書いたり，話し合ったりする活動の工夫】 ・記入欄を，「ステップ1」～「ステップ4」でそれぞれ設けている。 【自分の考えを記入する活動の数】 「けんこうな生活」 ○　自分の考えを書く活動(16) ○　話し合う活動(4) 「体の成長とわたし」 ○　自分の考えを書く活動(15) 「心の健康」 ○　自分の考えを書く活動(10) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(15) ○　話し合う活動(1) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(20) ○　話し合う活動(2)

	【学習課題の示し方】 ・質問形式で課題を提示している。 【学習の動機づけ】 ・「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」というコーナーで，自分の生活を振り返って書く活動を設定している。（11か所）	【導入の工夫】 ・単元の見通しを持たせるための記述があり、写真を掲載している。 【課題解決の過程の扱い】 ・課題をつかもう ・いろいろな活動を通して課題を解決しよう 「やってみよう」 「話し合ってみよう」 「調べてみよう」 ・活用して深めよう 「活用して深めよう」 ・まとめよう ・毎日の生活に生かそう	【単元や資料等の配列（ページ数）】 3年　毎日の生活とけんこう 1　けんこうなせいかつ(2) 2　1日の生活のしかた(4) 3　体のせいけつ(2) 4　けんこうによい生活かんきょう(4) もっと知りたい！(2) 3年のまとめ(1) 4年　育ちゆく体とわたし 1　大きくなってきたわたし(2) 2　大人の体になるじゅんび1(2) 3　大人の体になるじゅんび2(4) 4　よりよく育つための生活(2) もっと知りたい！(2) 4年のまとめ(1) はってん「受けつがれていく命」(1) 5年1心の健康 1　心の発達(2) 2　心と体のつながり(2) 3　不安やなやみがあるとき(2) もっと知りたい！(2) 5年1のまとめ(1) 2けがの防止 1　けがの原因(2) 2　交通事故によるけがの防止(2) 3　身の回りで起こるけがの防止(2) 4　犯罪被害から身を守る(2) はってん：自然災害から身を守る(2) 5　けがの手当(2) 5年2のまとめ(1) 6年　病気の予防 1　病気の起こり方(2) 2　病原体と病気の予防(4) 3　生活のしかたと病気の予防1(2) 4　生活のしかたと病気の予防2(2) 5　たばこの害と健康(2) 6　飲酒の害と健康(2) 7　薬物乱用の害と健康(2) 8　地域で行われている保健活動(2) もっと知りたい！(2) 6年のまとめ(1) 「ともに生きる」(1) 【他教科との関連】 ・他教科との関連があるページにおいて，教科名，単元名を明示して，関連があることを示している。	【本文記述との関連】 ・「体の成長とわたし」での自分の成長を調べる活動において，図・表・棒グラフで身長の伸びを確かめている。巻末のシールを切って，身長の伸びを貼るものがある。（4年P. 25） ・「けがの手当」での説明資料において，けがの種類・手当の方法を表記している。（5年P. 31） ・手当の方法では，説明とともにイラストを掲載している。	【自分の考えを書いたり，話し合ったりする活動の工夫】 ・授業終末にある「活用して深めよう」の学習活動には，理由も書くように問題を提示して，児童に書かせる欄を設けている。 【自分の考えを記入する活動の数】 「毎日の生活とけんこう」 ○　自分の考えを書く活動(8) ○　話し合う活動(4) 「育ちゆく体とわたし」 ○　自分の考えを書く活動(3) ○　話し合う活動(1) 「心の健康」 ○　自分の考えを書く活動(5) ○　話し合う活動(4) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(9) ○　話し合う活動(5) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(3)
大日本	【ICTの活用】 ・動画　まどを開けたときの空気の流れ ・webサイト　「早ね，早起き，朝ごはん」 ・webサイト　子どもの食育 ・「自分と友達のよいところ」シート ・webサイト　子どものＳＯＳの相談窓口 ・動画　すりきずの手当のしかた ・動画　打ぼく・ねんざの手当のしかた ・動画　鼻血の手当のしかた ・動画　やけどの手当のしかた ・動画　切りきずの手当のしかた ・虫さされの手当のしかた ・webサイト　国土交通省キッズコーナー ・webサイト　地震キッズ探検隊 ・webサイト　こどもぼうさいe-ランド ・webサイト　熱中症予防声かけプロジェクト ・webサイト　日本医師会 ・webサイト　厚生労働省最新たばこ情報 ・webサイト　アルコール健康医学協会 ・webサイト　麻薬・覚せいざい乱用防止センター	【まとめや振り返りの工夫（毎時間）】 ・各時間毎に「活用して深めよう」というコーナーで，学習したことを活用して考え，記述する欄がある。 ・記述欄には，問いかけに対して答え，記入するようになっている。 【まとめや振り返りの工夫（単元末）】 ・単元終末に学習のまとめのページが1ページあり，学習したことを振り返る欄や，活用することを記述する欄がある。			

文教社	【学習課題の示し方】 ・質問形式で課題を提示している。 【学習の動機づけ】 ・「振り返ってみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」というコーナーで，自分の生活を振り返って書く活動を設定している。（12か所） 【ICTの活用】 ・webサイト　郷土料理 ・動画　1日着た衣類の汚れ ・動画　学校で行われているほけん活動 ・動画　つながる命 ・動画　卵子・精子 ・動画　体のよりよい発育 ・webサイト　子供の人権110番 ・webサイト　24時間子供SOSダイヤル ・webサイト　地域での安全 ・webサイト　防災について ・動画　自分に合ったきん張のほぐし方 ・動画　体ほぐしの例 ・動画　心の健康アドバイス ・動画　交通安全施設の例 ・動画　自転車の安全点検 ・動画　水の事故を防止するための取り組み ・webサイト　体のしくみについて ・webサイト　食中毒について ・webサイト　エイズ予防情報ネット ・webサイト　「栄養バランスガイド」について ・webサイト　「8020推進財団」 ・webサイト　最新たばこ情報 ・webサイト　麻薬・覚せい剤乱用防止センター ・webサイト　厚生労働省検疫所 ・webサイト　地域保健について ・動画　歯の変化のようす ・動画　保健センターの活動	【導入の工夫】 ・単元の見通しを持たせるための記述があり，イラストを掲載している。 ・ガイドキャラクターによるつぶやきによって，学習の流れを示している。 【課題解決の過程の扱い】 ・「ふりかえってみよう」 ・「考えてみよう」 ・「調べてみよう」 ・「話し合ってみよう」 ・「やってみよう」 ・「新しい自分にレベルアップ」 【まとめや振り返りの工夫（毎時間）】 ・各時間毎に「新しい自分にレベルアップ」というコーナーで，学習したことを活用して考え，記述する欄がある。 ・記述欄には，これから気を付けていくことやできることを話し合い，記入するようになっている。 【まとめや振り返りの工夫（単元末）】 ・単元終末に学習のまとめのページが1ページあり，活用することを記述する欄がある。	【単元や資料等の配列（ページ数）】 3年　1章　毎日の生活とけんこう(2) 1　けんこうな生活とわたし(2) 2　1日の生活のリズム(4) 3　体のせいけつ(4) 4　けんこうによい部屋(2) わたしのけんこうせん言(2) 4年　2章　体の発育・発達(1) 1　体の発育(3) 2　思春期の体の変化1(2) 3　思春期の体の変化2(4) 4　体のよりよい発育(4) わたしのすくすくせん言(1) 発展：おへそってすごいんだ（詩）(1) 5年　1章　心の健康(2) 1　心の発達(3) 2　心と体のつながり(2) 3　不安やなやみへの対処1(3) 4　不安やなやみへの対処2(2) わたしのスッキリせん言(1) 2章　けがの防止 1　学校生活でのけがの防止(4) 2　交通事故の防止(3) 3　地域での安全(3) 4　けがの手当て(2) わたしの安全せん言(1) 発展：熱中症(1)，災害(2) 6年　3章　病気の予防(1) 1　病気の起こり方(3) 2　病原体と病気(4) 3　生活のしかたと病気1(2) －生活習慣病の予防－ 4　生活のしかたと病気2(2) －むし歯や歯周病の予防－ 5　喫煙の害(3) 6　飲酒の害(3) 7　薬物乱用の害(2) 8　地域の保健活動(2) わたしのいきいきせん言(2) 【他教科との関連】 ・他教科との関連がある場合には，ページ下部に学年・教科名を示している。	【本文記述との関連】 ・「体の発育・発達」での自分の成長を調べる活動において，イラスト・棒グラフで身長の伸びを確かめている。(4年P.20) ・「けがの手当て」での説明資料において，けがの種類・手当の方法を表記している。(5年P.24) ・手当の方法では，説明とともにイラストを掲載している。 ・手当の際の注意点を表記している。	【自分の考えを書いたり，話し合ったりする活動の工夫】 ・学習後の自分の生活に生かすために，各学年の単元末に「わたしのけんこうせん言」というページを設け，記入できるようにしている。 【自分の考えを記入する活動の数】 「毎日の生活とけんこう」 ○　自分の考えを書く活動(7) 「体の発育・発達」 ○　自分の考えを書く活動(2) ○　話し合う活動(4) 「心の健康」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(3) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(3) ○　話し合う活動(5) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(11) ○　話し合う活動(5)

	【学習課題の示し方】 ・質問形式で課題を提示している。 【学習の動機づけ】 ・「はじめに」というコーナーで，自分の生活を振り返って書く活動を設定している。（4か所） 【ICTの活用】 動画　手のよごれ 動画　衣服のあらい方 動画　部屋のかんき 動画　手のあらい方 動画　心の発達 動画　心と体の関わり 動画　すりきず・切りきずの手当 動画　インターネットのトラブル 動画　インフルエンザの予防 動画　食中毒の予防 動画　流れの悪い血管 動画　むし歯と歯ぐきの病気 動画　たばこの害 動画　アルコールの害 動画　薬物乱用の害 ・webサイト　「めざましごはんとは？」 ・webサイト　「アクティブ・チャイルド・プログラム」 ・webサイト　「子どもの体力ホームページ」 ・webサイト　国立スポーツ科学センター ・webサイト　安らぎ呼吸プロジェクト ・webサイト　日本いのちの電話連盟 ・webサイト　迷惑メール相談センター ・webサイト　インターネット安全・安心相談 ・webサイト　キッズクラブ ・webサイト　生活習慣病を知ろう！ ・webサイト　最新たばこ情報 ・webサイト　薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」	【導入の工夫】 ・単元の見通しを持たせるための記述があり，イラストを掲載している。 【課題解決の過程の扱い】 ・学習課題をつかむ ・課題解決に向けて，学習活動をする。 「調べよう」 「考えよう」 「やってみよう」 「話し合おう」 ・学習をまとめる 【まとめや振り返りの工夫（毎時間）】 ・各時間毎に「生かそう伝えよう」というコーナーで，学習したことを活用して考え，記述する欄がある。 ・記述欄には，これから気を付けていくことやできることを記入するようになっている。 ・「広げよう深めよう」というコーナーで，現代的な課題を取り上げた資料を掲載している。（10） 【まとめや振り返りの工夫（単元末）】 ・単元終末に学習のまとめのページが1ページあり，キーワードを書き込む欄や学習したことを振り返る欄，活用することを記述する欄がある。	【単元や資料等の配列（ページ数）】 3年1章　けんこうな生活(1) 1　けんこうってなに？(4) 2　けんこうな1日の生活(2) さらに広げよう深めよう(2) 3　体のせいけつ(2) 4　身の回りのかんきょう(2) さらに広げよう深めよう(2) 学習のまとめ(1) 4年2章　体の発育と健康(1) 1　変化していく体(4) 2　思春期の体の変化1(2) 3　思春期の体の変化2(4) 4　よりよい発育のために(4) さらに広げよう深めよう(2) もっと知りたい！(2) 学習のまとめ(1) 5年1章　心の健康(1) 1　心の発達(4) 2　心と体の関わり(2) さらに広げよう深めよう(2) 3　不安やなやみなどへの対処(3) さらに広げよう深めよう(1) 学習のまとめ(1) 2章けがの防止(1) 1　けがや事故の起こり方(2) 2　学校や地域でのけがの防止(2) 3　交通事故の防止(2) さらに広げよう深めよう(2) 4　犯罪被害の防止(2) 5　けがの手当(2) さらに広げよう深めよう(2) 発展　自然災害から身を守る(2) 学習のまとめ(1) 6年3章病気の予防(1) 1　病気の起こり方(2) 2　感染症の予防(3) さらに広げよう深めよう(3) 3　生活習慣病の予防1(2) 4　生活習慣病の予防2(2) さらに広げよう深めよう(2) 5　喫煙の害(2) 6　飲酒の害(2) 7　薬物乱用の害(2) さらに広げよう深めよう(2) 8　地域の保健活動(2) 学習のまとめ(1) 発展　共に生きる社会のために(1) 【他教科との関連】 ・他教科との関連がある場合には，ページ下部に学年・教科名を示している。	【本文記述との関連】 ・「体の成長とわたし」での自分の成長を調べる活動において，表・棒グラフで身長の伸びを確かめている。（4年P.24） ・「けがの手当」での説明資料において，けがの種類・手当の目的・手当の方法を表記している。（5年P.33） ・手当の方法では，説明とともにイラストを掲載している。 ・手当の際の注意点を表記している。	【自分の考えを書いたり，話し合ったりする活動の工夫】 ・「学んだことを生かそう伝えよう」のコーナーでは，学習したことを記述する欄がある。「話し合おう」というマークを示して，問いの文章と併記して，話し合い活動を行う場面がある。 【自分の考えを記入する活動の数】 「けんこうな生活」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(4) 「体の発育と健康」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(3) 「心の健康」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(2) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(10) ○　話し合う活動(6) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(14) ○　話し合う活動(6)
光文					

学研	【学習課題の示し方】 ・質問形式で課題を提示している。 【学習の動機づけ】 ・「つかむ」というコーナーで，自分の生活を振り返って書く活動を設定している。（4か所） 【ICTの活用】 ・動画　まどを開けるとどうなるか ・webサイト　手を洗おう ・画像　小学校4年生の女子と男子の体つきの違い ・画像　子どもと大人の体つきの違い ・動画　卵子 ・動画　精子 ・webサイト　子どもの体力ホームページ ・webサイト　日本学校保健会 ・リンク集　安全を守るための緊急の警報 ・webサイト　24時間子供SOSダイヤル ・リンク集　危険予測トレーニング ・webサイト　急な大雨や雷・竜巻から身を守るために ・webサイト　ザグレートジャパンシェイクアウト ・動画　簡単なけがの手当 ・webサイト　キッズクラブ ・webサイト　健康寿命をのばそう！ ・webサイト　歯とお口のことならなんでもわかるテーマパーク8020 ・webサイト　薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」 ・動画　喫煙や飲酒をすすめられたとき ・webサイト　くすり研究所	【導入の工夫】 ・単元の見通しを持たせるための記述があり，写真を掲載している。 ・ガイドキャラクターによるつぶやきによって，学習の流れを示している。 【課題解決の過程の扱い】 ・つかむ 「チェックする」 「話し合う」 「たしかめる」 「ふり返る」 「考える」 「くらべる」 ・考える・調べる 「考える」 「資料を読み取る」 「くらべる」 「チェックする」 「調べる」 「話し合う」 「ふり返る」 ・まとめる・ふかめる 「学びを活用する」 「目標を立てる」 「生活につなげる」 「実習をふり返る」 【まとめや振り返りの工夫（毎時間）】 ・各時間毎に「まとめる・深める」というコーナーで，学習したことを活用して考え，記述する欄がある。 ・記述欄には，問いかけに対して答え，記入するようになっている。 【まとめや振り返りの工夫（単元末）】 ・単元終末に学習のまとめのページが1ページあり，学習したことを振り返る欄や，活用することを記述する欄がある。	【単元や資料等の配列（ページ数）】 3年　1章　健康な生活(1) 1　かけがえのない健康(2) 2　1日の生活のしかた(2) もっと知りたい・調べたい(2) 3　体の清けつ(2) 4　身の回りのかんきょう(2) もっと知りたい・調べたい(2) ふり返る・深める・つなげる(1) 4年　2章　体の発育・発達(1) 1　変化してきたわたしの体(2) もっと知りたい・調べたい(2) 2　大人に近づく体(2) 3　体の中で起こる変化(2) もっと知りたい・調べたい(2) 4　よりよい発育・発達のために(2) もっと知りたい・調べたい(2) ふり返る・深める・つなげる(1) 資料：安全な生活のために(2) 5年　1章　心の健康(1) 1　心の発達(2) もっと知りたい・調べたい(2) 2　心と体のつながり(2) 3　不安やなやみへの対処(6) ふり返る・深める・つなげる(1) 2章　けがの防止 1　けがの発生(3) 2　交通事故の防止(2) 3　学校や地域でのけがの防止(4) もっと知りたい・調べたい(2) 4　けがの手当て(2) ふり返る・深める・つなげる(1) 6年　3章　病気の予防(1) 1　病気の起こり方(2) 2　病原体と病気(2) もっと知りたい・調べたい(2) 3　生活のしかたと病気1(2) 4　生活のしかたと病気2(2) もっと知りたい・調べたい(2) 5　喫煙の害(2) 6　飲酒の害(2) 7　薬物乱用の害(2) もっと知りたい・調べたい(2) 8　地域のさまざまな保健活動(2) ふり返る・深める・つなげる(1) 資料：みんなの健康を守るさまざまな仕事(1) 【他教科との関連】 ・保健の内容について他教科との関連がある場合には，本文中に注釈として関連を示している。	【本文記述との関連】 ・「体の発育・発達」での自分の成長を調べる活動において，テープ図で身長の伸びを確かめている。（4年P.22） ・「けがの手当」での説明資料において，けがの種類・手当の方法を表記している。（5年P.31） ・手当の方法では，説明とともにイラストを掲載している。 ・手当の際の注意点を表記している。	【自分の考えを書いたり，話し合ったりする活動の工夫】 ・学習の進め方の中で，「考える・調べる」時間が設けられており，友達と話し合う時間を設定している。 【自分の考えを記入する活動の数】 「健康な生活」 ○　自分の考えを書く活動(5) ○　話し合う活動(3) 「体の発育・発達」 ○　自分の考えを書く活動(4) 「心の健康」 ○　自分の考えを書く活動(7) ○　話し合う活動(2) 「けがの防止」 ○　自分の考えを書く活動(4) ○　話し合う活動(2) 「病気の予防」 ○　自分の考えを書く活動(9) ○　話し合う活動(3)

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　英語

	観点１ 基礎・基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む 工夫	観点３ 内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現・表記	観点５ 言語活動の充実
	○教科の基礎的・基本的な内容を確実に定着させるための指導内容の工夫	○問題解決的な学習、体験的な学習などを取り入れるなど、児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○伝統や文化についての教育の充実に関する内容の構成・配列・分量 ○教科横断的な学習の充実に関する内容の構成・配列・分量	○有効なさし絵・地図・図表などの資料等 ○児童にとって親しみやすい表現・表記	○教科の特質に応じて、思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫
東書	・各単元の冒頭のページに単元の学習目標を示している。	・見開きページを活用して，単元名，学習のめあてと共にイラストや写真を掲載している。単元ゴールの姿となるイラストは太枠で囲い，音声や映像も活用できるよう設定している。	・各単元の最後に「Over the Horizon」のページがあり，異文化情報に触れ世界を広げられるようにしている。	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。	・6年Unit1「This is me!」においてプロフィールを聞く，プロフィールを伝え合う，名前・出身地・好きなこと・誕生日をプロフィールカードに書いてスピーチをする活動を設定している。 (P.10-11)
	・別冊にCAN-DOリストを明示している。	・二次元コードを活用し，英語の音声を聞いたり実写動画を見たりする活動を設定している。	・音に出会う→会話に慣れる→コミュニケーションを楽しむ→世界を広げるという流れで学習を展開している。	・別冊（辞書）には630語が絵とともに掲載され，単語は，4線に書いてある。また，Unit毎の基本表現をまとめている。	・2つまたは3つのUnit終了後，UnitをまとめるCheck Your Stepsで学びの確かめをしている。
	・三人称は5年で2単元，過去形は6年で3単元設定している。	・学びの振り返りをし伝える力を確かめるようなテーマを年間3回設定し，2観点で振り返りをしている。	・他教科との関連がある箇所にマークを付している。（国・算・社・家・総・道）	・5年は4線・書き順付のアルファベット表，6年はアルファベットチャートを掲載している。	
	・Unitの終末で行うコミュニケーション活動に必要な英語を練習したり，コミュニケーションカードに必要な英語を書いたりする活動を設定している。（4線あり）(6年P.86-89)		・ページ数　5年：96ページ，6年：96ページ，別冊：48ページ ・Unit数　5年：8（＋チェック2），　6年：8（＋チェック2）	・巻末にUnit毎のコミュニケーションカードが付いており，1枚毎に切り取り用のミシン目がついている。	
	・巻末に書き込み用ノートがあり，5年ではアルファベット，6年ではUnit毎の「私のせりふ」をなぞったり書いたりするページを設定している。		・紙面上下に「Small Talk」「Word Link」「Sound and Letters」「Let's Sing」「Let's Chant」を掲載している。	・学習で使用したコミュニケーションカードを貼り付けるページがある。	

開隆堂	・各単元の冒頭のページに単元の学習目標を示している。 ・巻頭にCAN-DOマップを明示している。 ・三人称は5・6年で2単元，過去形は6年で2単元設定している。 ・音と文字の結びつきを学んだり，読み書きを繰り返し学習したりする「文字に慣れよう」のページを設定している。(6年P.81-101)(4線あり)	・見開きページを活用して，単元名，学習のめあてと共にイラストや写真を掲載している。単元のゴールとなる音声を聞く活動を設定している。 ・二次元コードを活用し，英語の音声を聞いたり動画を見たりする活動を設定している。 ・各単元の最後に，3観点で振り返りをしている。	・5年で自分の町(郷土)，6年で日本のことや世界のことを紹介する活動を設定し，世界に目を向けるとともに日本のよさを再発見できる題材を取り入れている。 ・音に出会う→表現に慣れる→コミュニケーションを楽しむという流れで学習を展開している。 ・他教科との関連を教科名のマークで示している。(国・算・社・理・家) ・ページ数　5年：119ページ，　6年：127ページ ・Unit数　5年：9　(＋プロジェクト2)，　6年：11(＋プロジェクト2)	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。 ・巻末にアルファベット順の単語リストを掲載している。 ・5・6年とも4線つきのアルファベット表，ローマ字表，キーボードの図を掲載している。 ・学習で使用したコミュニケーションカードを貼り付けるページがある。 ・ページは数字と英語で表記している。 ・「文字に慣れよう」のページは本編とは違う特別な用紙を使用している。	・6年Lesson1「We are friends.」において，会話を聞く，自己紹介をする，友達との共通点を見付ける活動を設定している。 (P.4-5) ・2回のProjectで，既習の復習ができるようにしている。

学図	・各単元の冒頭のページにレッスンの目標と学習の進め方を示している。	・単元冒頭に単元名，学習のめあてと共に学習の進め方を掲載している。また，見開きページを活用して，イラストを掲載している。	・コラムに海外や日本のことを書いた読みものを掲載し文化について視野を広げられるようにしている。	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。	・6年Lesson1「I'm from India」において，出身地を聞く，出身地を言う，出身地・できること・得意なことを含めた自己紹介をする活動を設定している。(6年P.20-25)
		・二次元コードを活用し，単語の音声を聞く活動を設定している。	・音声を聞いて慣れる→表現に慣れる→話す→読む・書くという流れで学習を展開している。	・巻末に10曲の英語の歌と，5年は32ジャンル6年は37ジャンルのワードリストを掲載している。	・各単元の終わりに見開き2ページのUse＆Checkがあり，聞く，話す，読む，書くの4技能の復習ができるようにしている。
	・三人称は5・6年で3単元，過去形は6年で2単元設定している。	・各単元の最後に，4観点で振り返りをしている。		・5・6年ともローマ字表を掲載している。	
	・アルファベットの音への気付きを促す活動，目標表現をなぞったり書き写したりする活動を設定している。 ・Lessonの終わりに「書くこと」を含めたまとめの活動を設定している。 （4線あり）(6年P.26-27 95)		・ページ数　5年：157ページ 6年：153ページ ・Unit数　5年：10，　6年：10		
	・アルファベットコーナーでは，授業以外でもクイズやゲーム形式で文字を確認できるようにしている。（解答は巻末にある。）		・紙面下に「Sounds ＆ Letters」を掲載している。		

三省堂	・各単元の冒頭のページに単元の学習目標を示している。 ・巻末にCAN-DOリストを明示している。 ・三人称は5年で1単元，過去形は6年で2単元設定している。 ・学習のゴールでコミュニケーション活動をするために，プロフィールカードを書く活動を設定している。 (6年P.96)	・導入（大単元の始まりHOP）で自分の力や目指す姿を確認させている。 ・二次元コードを活用し，単語の音声を聞く活動を設定している。 ・2つまたは3つの単元終了毎に，学習した内容を踏まえたプレゼンテーションを2回行い，それぞれ2または3観点で振り返りをしている。	・世界や文化に目を向けられるような題材，ことばや文化に関するコラムで英語を学ぶ意味や面白さへの気付きを促している。 ・表現に出会う→表現に慣れる→実際の場面で活用するという流れで学習を展開している。 ・ページ数　5年：128ページ，　6年：128ページ ・Unit数　5年：7（＋ゲットレディ3，プレゼンテーション3），6年：7（＋ゲットレディ3，プレゼンテーション3）	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。 ・巻末に，5年は27ジャンル6年は35ジャンルのワードリストを異次元コードを付けて掲載している。 ・5・6年とも切り取り式で4線つきのアルファベット表，ローマ字表をつけている。	・6年Lesson1「We are from India.」において，会話を聞く，やり取りをする，読む・書く，やり取りをしながら好きなものや持っている楽器が自分と同じ仲間を探す活動を設定している。 (6年P.25) ・2または3つのLesson終了毎にPresentationを設定し，既習の復習ができるようにしている。

教出	・単元の冒頭に，各単元の学習目標を提示している。 ・三人称は5・6年で3単元，過去形は6年で2単元設定している。 ・各単元の最後に，Sounds and LettersとReviewを設定している。	・見開きページを活用して，単元名，学習のめあてとともに，場面設定を示したイラストや写真を掲載している。 ・映像と合わせて聞く活動，シールやワークシートを使った活動，チャンツ等を設定している。（二次元コードなし） ・各単元の最後に，4観点で振り返りをしている。	・5年生では海外の学校の様子や手話，6年生では外来語，絶滅危惧種をテーマにした内容を紹介している。 ・映像を見ながら表現に出会う→表現に慣れる→話す→読む，書く→話す，発表するという流れで学習を展開している。 ・国語や道徳の定番教材を扱ったり，社会科や家庭科等と連携を図った活動を取り入れている。 ・ページ数　5年：118ページ，6年：112ページ ・Unit数　5年：9，　6年：9	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。 ・巻頭にClassroom English，Let's Start Together があり，巻末には，My World Bnkとして活動に使える単語が分野別に載っている。 ・Jingle，アルファベット表，ローマ字表，ミシン目の入ったカード，ワークシート，My Bookがついている。 ・アルファベット表のそれぞれのアルファベットが四線上に示してある。	・6年Lesson1「Let's be friends.」において，導入で，外国から来た転入生とクラスメートが話している映像を見る，好きなもの，できること，誕生日を伝え合い，自由に尋ねる活動，作ったシートを見せながら，ペアで自己紹介し合う活動を設定している。(6年P.19)

光村	・単元の冒頭にGoalとして，各単元の学習目標を提示している。 ・各学年でできるようになることとして，CAN-DOリストを明示している。 ・三人称は5・6年で2単元，過去形は6年で2単元設定している。 ・6年で，夏休みの思い出をポスターを作って発表する活動を設定している。（4線あり）(6年P.53-57)	・見開きページを活用して，単元名，学習のめあてとともに，世界地図や写真やイラスト等を掲載している。 ・二次元コードを活用して，映像を見ながら会話を聞く活動やゲームを設定している。 ・各単元の最後に，3観点で振り返りをしている。	・世界12か国の子どもたちの様子を取り上げたり，世界で活躍する日本人を題材として取り上げたりしている。 ・知識・技能の習得と活用から，思考力・判断力・表現力を養う言語活動へ展開している。 ・「言葉について考えよう」は，国語科の学習と関連させながら，より良い言葉の使い方が考えられるようにしている。 ・家の手伝いを題材にしたり，地域の良いところを発表する活動を取り入れたりしている。 ・ページ数　5年：136ページ，6年：140ページ ・Unit数　5年：9，　6年：9 ・紙面下に，一言フレーズや絵辞典のページ番号，発音について掲載している。	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。 ・巻頭には，Let' startとして，アルファベット表や教室で使う英語がある。 ・巻末には，分野別の絵辞典，学習した表現の一覧，自己紹介カード，Let's play sugoroku.　ローマ字表，カード（ミシン目なし），シールがついている。 ・アルファベット表のそれぞれのアルファベットにイラストと単語がついている。	・6年Unit1「This is me.」において，留学生の自己紹介を聞く，動物になりきって質問に答えたり，ペアで得意なことについてやり取りしたりする，世界の小学生が自己紹介している映像を見た後，自己紹介し合う活動を設定している。（6年P.24-25） ・3または4つのUnit終了後，関連した学習として楽しみながら英語に親しめるページや，学んだことを振り返ったり広げたりするページを設定している。

啓林館	・単元の冒頭にGOALとして，各単元の学習目標を提示している。 ・巻末に，各学年でできるようになったこととして，CAN-DOリストがを明示している。 ・三人称は5年で2単元，過去形は6年で3単元設定している。 ・5年で，友だちのできることを発表，6年で，夏休みの思い出絵日記を発表，中学校を紹介してくれたい人に、お礼の手紙を書く活動を設定している。（4線あり）(6.年P45-49)	・見開きページを活用して，単元名，学習のめあてとともに，世界地図や写真，イラスト等を掲載している。 ・Jingleに二次元コードが設定してあり，書く活動には例を示している。 ・Partごとの達成度を3段階でふり返り，さらに，各単元の最後に，5観点で振り返りをしている。	・異文化理解や自国の文化，他者への配慮などを学ぶ題材や演習問題を扱っている。（道徳との関連） ・音声を聞いて慣れる→（Partごとに）聞く，話す，書くという流れで学習を展開している。 ・国語科，算数科，社会科，道徳との関連を図った単元を設定している。 ・ページ数　5年：120ページ，6年：120ページ ・Unit数　5年：8，　6年：8 ・各ページの番号に英語表記がついている。	・巻頭に5領域に関連した活動の種類を示すマークを示し，紙面に明示している。 ・巻頭には，アルファベット表があり，巻末には，Storyとして絵本があり，分野別のWorld List（二次元コードつき），ミシン目つきのカードがついている。 ・アルファベット表のそれぞれのアルファベットが四線上に示してあり，イラストと単語がある。また，パソコンのキーボードのイラストもついている。	・6年Unit1「I'm from Tokyo, Japan.」において，導入ので外国の子どもたちの自己紹介を聞く，好きなものを言ったり尋ねたりする，外国の人にする自己紹介を考えて話す活動を設定している。(6年P.17) ・2または3つのUnitの終了後，復習として，聞く，書く，やり取りする活動があり，さらに，ポスターやグラフから読み取る等の活動を設定している。

令和２年度使用小学校教科用図書　調査研究報告書

種目　道徳

	観点１ 基礎・基本の定着	観点２ 主体的に学習に取り組む工夫	観点３ 内容の構成・配列・分量	観点４ 内容の表現･表記	観点５ 言語活動の充実
	○自己を見つめる工夫 ○物事を多面的・多角的に考える工夫 ○自己の生き方についての考えを深める工夫	○問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを取り入れた児童の主体的な学びを引き出す指導方法の工夫	○児童の発達的特質に応じた内容構成や分量 ○関連的，発展的に取り扱われた内容項目の配列 ○いじめの問題や情報モラル，社会の持続可能な発展などの現代的な課題の扱い	○本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・地図・図表などの活用	○自分の考えを基に話し合ったり書いたりする言語活動の工夫
東書	・巻末に，自分の成長を振り返ったり，これからの自分の生き方について考えをまとめたりするページを設定している。 ・教材の終わりに，自己を見つめたり，自己の生き方について考えを深める発問例を示している。 ・長期休業前に，道徳の学習で学んだことについて生かしたいことを書くコーナーを巻末に設けている。 ・4年生以上の巻頭「道徳の時間が始まるよ！」には，イラストの吹き出しに「僕の考えと同じだ」「そういう考えもあるんだ」「わたしの考えとは違うな」など，自分の考えと友達の考えを比較する視点を示している。 ・巻末「これからもかがやく自分に」と，巻頭「こんな自分になりたいな」を比較することで，自分の成長への気付きを促すようにしている。 ・巻頭「道徳の学習をすすめるために」には，授業の流れについて「気づく」「話し合う，考える」「振り返る，見つめる」「生かす」の順に示しており，「自分の課題に気付く」「自分の考えと友達の考えを比べながら話し合う」「自己を見つめる」「学びを未来につなげる」の順で授業を進めることができるようにしている。	・各学年に「出会う・ふれ合う」の学習活動ページを設定し，体験活動と教材が関連するようにしている。 ・巻頭に，「話合いの約束」を記載している。 ・第3学年以上では，とびらページに，児童の問題意識を生む言葉を掲載している。	・いじめに関するユニット学習を設定している。 ・いじめ，情報モラル，安全・防災教育等の現代的な課題に対する内容を位置付けている。 ・目次に，他教科とのつながりが分かるよう記している。 ・「つながる広がる」のページに，関連がある教科名を明記している。 ・低学年では，身近な生活場面を取り上げた教材を複数設定している。 ・3年生以上には，巻末に，日本の自然や文化などについて紹介する折込ページを設定している。	・学習指導要領の四つの視点について，それぞれ異なったマークと色を設定し，目次と教材の冒頭に記している。 ・教材によっては，デジタルコンテンツを利用することができるようにしている。 ・色覚特性を踏まえた色を使用している。 ・オリジナルキャラクター「こころん」を設定している。 ・「体験活動とのつながり」「他教科等とのつながり」「問題解決的な学習」「いじめ問題」「情報モラル」のそれぞれにマークを設定し，目次や教材文の冒頭に示している。	・活動の手順と，児童が記述できるページを，全学年に2か所ずつ設定している。 ・教材の終わりに，話合いのテーマとなる「考えるステップ」を記している。 ・巻頭に，「話合いの約束」が記載されており，話合いをする際のポイントを示している。 ・巻末に自己評価についてマークに色をぬるページを設けている。 ・長期休業前に，道徳の学習で学んだことについて生かしたいことを書くコーナーを巻末に設けている。 ・巻頭に，「話合いの約束」を記載している。

学図	・別冊で，友だちの考えと自分の考えを記述し，比較できるようにしている。 ・別冊に，自己の生き方について考えるための学習活動が設定できるよう記載している。 ・別冊に，自己を振り返るページがあり，児童がねらいとする道徳的価値に対して自分の生活を振り返ることができるようにしている。 ・別冊では，「きづく」「かんがえよう」「みつめよう」の順に構成しており，「自分の課題に気付く」「自分の考えと友達の考えを比べながら話し合う」「学びを未来につなげる」の順で授業を進めることができるようにしていろ	・別冊に，自己を振り返るページがあり，児童がねらいとする道徳的価値に対して問題意識がもてるようにしている。 ・別冊に，「やってみよう」が設定されている教材では，役割演技などを取り入れた学習活動ができるようにしている。 ・第5学年では，児童の実態を棒グラフで提示することで，問題を視覚化している。（別冊5年P. 34） ・全学年において，別冊に，ねらいとする内容項目に関わる図書を紹介している。	・他教科の学びを想起させるような呼びかけ文や，記述するためのスペースを設けている。 ・いじめ問題に関わりの深い内容項目に関する教材を複数，意図的に配列している。 ・情報モラル，キャリア教育，国際理解教育など，現代的な課題に対応した教材を各学年に位置付けている。 ・別冊巻末に，保護者に向けて，道徳科の学習における各学年の児童の目指す姿などについて説明している。 ・別冊が，学習する順番ではなく，内容項目ごとに教材の内容を配列している。	・第4学年では，新聞記事や棒グラフを教材文とともに記載している。（4年P. 85） ・学習指導要領の四つの視点について，それぞれ異なったマークと色を設定し，目次と教材の冒頭に記している。 ・全ての教材にＱＲコードが記されており，インターネット上のコンテンツを利用できるようにしている。 ・いじめや情報モラルについての内容に，握手マークとスマホマークを設定し，目次や教材文の始めに示している。	・別冊に，自分の考えや友だちの考えを記述できるページを設定している。 ・別冊巻末「学びのヒント」には，話し方や聞き方，役割演技のスキルを記している。 ・巻頭「はじめのいっぽ 学級づくり」では，話合いを円滑にすすめるために必要なスキルをゲームを通して身に付けることができるようにしている。 ・毎時間，自己評価についてマークに色を塗るコーナーを設定している。
教出	・教科書冒頭上段に「道徳ではこんな学習をするよ」という学習の流れを見開き2ページで示している。 ・教材最後の「深めよう」で，自己の生き方や価値を深められる発問を設けている。 ・巻末に1年間の道徳の学習を振り返るページを設けている。 ・教材文の始めに，学習に入る前に考えてほしいことを「とりどり先生」というキャラクターとともに示している。	・「本当の友だちとはどんな友だちだろう」のように，各教材の始まりに考えるべき問題を提示している。（3年P. 22） ・「やってみよう」が，全体的に散りばめられており，動作化と役割演技をできるようにしている。 ・教科書冒頭「道徳ではこんな学習をするよ」下段において体験的な学習の視点を示している。	・命についての教材をユニットでまとめている。 ・1年生の最初の教材は文字がなく，写真や絵のみの教材にしている。 ・「くじけずに努力すること」「国や郷土を愛する心」など価値でいくつかの教材をまとめている。	・キャラクターが問題を提示したり価値をおさえる発言を吹き出しでコメントしたりしている。 ・キャラクター「とりどり先生」を設定している。 ・教材が四つの観点で色分けされ，マークが示されている。 ・「命を大切にする」「みんなと仲良くする」「情報モラルについて理解する」という三つの視点について，色とマークで示されている。	・教材最後の「考えよう」に，☆マークで話し合うことのできる問いを設けている。 ・教科書冒頭「道徳ではこんな学習をするよ」下段において，話し合いについて示している。 ・巻末に1年間の道徳の学習を振り返り，記入するページを設けている。

光村	・教材文の終わりの「つなげよう」のコーナーに，生活や他教科につながる言葉を「きらりん」というキャラクターとともに示している。（4年P. 22） ・教材文の始めに，学習に入る前に考えてほしいことを「こころん」というキャラクターとともに示している。 ・1年間の中に「自分をのばす」というテーマを設けている。 ・テーマごとに「学びの記録」を書くページを設けている。	・教材冒頭見開き2ページに，「話し合って考えよう」「えんじて考えよう」「読んで考えよう」「書いて考えよう」という四つの視点を示している。 ・教材文の終わりに「考えよう・話し合おう」というコーナーを設け，めあてや発問を示している。 ・教材文の終わりに「えんじて考えよう」というコーナーを設け，「友達がえんじるのを見ながら考えよう」と学習活動を示している。	・1年間を「互いに認め合う」「人や社会に目を向ける」「自分をのばす」という三つのテーマに分けている。 ・いじめに関する教材やコラムを「いじめを許さない心」という一つのユニットでまとめている。 ・情報に関する教材やコラムを「じょうほうと向き会う」という一つのユニットでまとめている。	・教材の初めに四つの視点をマークで示している。 ・教材文と関連したイラストや写真を見開きで掲載している。（4年P. 54-55） ・1年間を三つの学習のまとまりに分け，色やマークで表している。 ・キャラクター「こころん」と「きらりん」を設定している。	・「心を通わそう」というコーナーを設け，話し合い活動のテーマや方法をイラストとともに示している。 ・教材の終わりの「考えよう・話し合おう」では，教材における話し合い活動を示している。 ・第2学年以降，巻頭に「道徳の時間は，今よりももっとよい生き方ができるよう　考えて行く時間です。」という見開き2ページを設け，言語活動の例を示している。

日文	・学習方法は，「①気づく」→「②考える・深める」→「③見つめる・生かす」と示され，特に②では「議論する道徳」が視覚的にとらえられるよう話し合い活動が具体的に写真で提示している。 ・考えを引き出す「導入」「ねらいに迫るためのヒント」「分かったことを確かめ生かしていく」ための3つの発問例がを設定している。 ・多面的・多角的に考えられるよう「心のベンチ」で教材と関連した内容や活動を取り上げている。(6年P.56-57) ・自己を見つめ，人としての生き方について深く考えられるよう，児童に身近な人物やさまざまな生き方を教材としている。	・学習の手引きには，問題解決的な学習の手法を用いた指導例を載せている。（6年P.16-17） ・問題解決に向けて，考え方や解決の道筋を示し話し合いを促している。(2年P.26-27) ・児童が見通しをもって学習できるよう各教材にはすべて主題名が記載され，道徳的価値，教材に関わる導入の発問例が示されている。 ・特に体験的な学習を取り入れることが適している教材には「学習の手引き」を挿入している。(2年P.28) ・巻頭にはオリエンテーションページを設定している。 ・教材の冒頭に教材に入り込むための発問の例を掲載している。	・年間3回の「いじめ防止」ユニットで，「直接的」「関節的に扱う教材」と「いじめ防止に関するコラム」を設定している。(3年P.82-93) ・「人との関わり」を考えるための発達の段階に合わせた教材を精選している。 ・現代的・社会的課題として，情報モラル，安全確保，平和・人権教育，社会の持続可能な発展，キャリア教育，伝統文化教育，国際理解教育，法教育，食育・健康教育，消費者教育についての教材を選定している。 ・理解を深めるための教科書デジタルコンテンツをＷｅｂサイト上に設定している。(1年P.8-11) ・カリキュラム・マネジメントに資するよう教科等との関連をもつ教材を選定している。(5年P.42-45) ・「防災」「防犯」「交通安全」の観点で構成している。（1年P.118，2年P.42，3年P.66，4年P.70，5年P.158，6年P.58,130） ・校種間連携に配慮し，「スタートカリキュラム」や中学校段階との接続を視野に自覚を育てる意識された内容を選定している。(1年P.①②)(6年P.58)	・パソコンや電子黒板で活用できるよう教科書紙面をデジタル化している。 ・教材冒頭にあらすじ・主な登場人物を紹介している。 ・本が大きく開くようあじろ綴じが採用されており，別冊が収まるよう製本されている。大きな判型(AB判），軽い用紙を使用している。	・自由記述欄や学習を振り返る欄，友達の意見の記入欄等心の成長を記録する別冊「道徳ノート」を付属している。

光文	・1時限の授業の目的や流れを明確にするよう，各教材には，冒頭に「導入」，末尾に「まとめる（終末）」「ひろげる（発展）」を設置している。 ・児童に寄り添うキャラクターを設定し，共感や気付き，考えるためのポイントや考えを広めるための見方など，さまざまな投げかけをしている。 ・各学年の初めに，学びの見通しをもたせるオリエンテーション「さあ，道徳の学習が始まります」がある。（全学年P. 2-9）	・①問いをもつ②考える③まとめる④広げるの4段階の紙面で構成している。 ・各教材冒頭に「問い」をもつための設問，教材の下段にキャラクターが「考える」投げかけを配置している。	・教材内容と季節が一致するよう教材の順番を設定している。 ・目次の各種アイコンについて説明を入れている。 ・情報モラルに関わる内容を題材として扱い，コラムとしても取り上げている。（5年P. 104） ・「主権者教育」「人との共生」「いじめ」「防災教育」「健康教育」「伝統と文化」などの現代的課題についても教材の題材として取り込まれている。（2年P. 60） ・図版やグラフの配色について配慮している。 ・「生命尊重」について重点的に学ぶ複数時間構成で扱っている。	・教科書のサイズを大判化（A4変形版）し，紙の厚みを抑え軽量化を図っている。 ・教材冒頭に登場人物を紹介している。 ・単語をまとまりごとに捉えやすくするように，可能なところでは文節改行を採用している。 ・前学年までの漢字を使用し，1～3年生は総ふりがなで記述している。	教科書の冒頭では，道徳ノートのまとめ方の例を紹介している。（全学年P. 9） ・学習後ふり返りを記述し蓄積できる巻末自己評価シート「学びの足あと」がある。学期末，年度末用の「まとめ」欄を設定している。 ・コラム「ことばのたからもの」で，人生の道標や支えとなるような名言を掲載している。（1年P. 131，2年P. 143，3年P. 157，4年P. 159，5年P. 163，6年P. 167） ・各教材の「広げる」で，具体的な活動や調べ学習などを提案し，家庭や地域，他教科につなぎ，コラムも配置している。（3年P. 74-76）

学研	・教材最後に「考えよう」を設け，一つは場面に応じた発問，もう一つは教材を通して大切なことについて考える発問を設定している。 ・教材最後に「つなげよう」というページを設け，自分の生活とつなげられるようにしている。 ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」下段で，自分を見つめ深めるポイントを3つ示している。 ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」上段に，「自分」「人」「社会」「命や自然」の4つのポイントを示している。	・教材の終わりに役割演技をする「やってみよう」というコーナーを設け，活動の道筋や演技をする側と見る側の視点を示している。 ・「深めよう」というコーナーを教材の終わりに設け，問題解決的な学習を示している。	・命や友情に関する教材をユニットとしてまとめている。 ・全教材を4つの観点に分け，見開き2ページに示している。 ・ユニットの冒頭に「2つの話で学習した後に，考えたことを書こう」という枠が設定されている。	・見開き2ページで原寸大の赤ちゃんや棚田の写真を載せている。 ・4つの観点で色分けされ，マークが示されている。 ・キャラクター「明日香」と「未来」を設定している。 ・情報モラルに関する教材に携帯電話のマークを示している。	・巻頭と巻末に自分自身のことについて書くページを設けている。 ・巻頭に自分を見つめ深めるポイントとして，「登場人物になりきってみよう」「話し合い高めよう」「書く活動を通して自分を見つめよう」等が示されている。 ・教材の終わりに「広げよう」や「つなげよう」を儲け，考えを書く問いを設定している。
廣あかつき	・別冊の巻頭に，「今の自分を見つめて」のコーナーが設けてあり，自分のことについて書くことができるようにしている。 ・別冊の巻末に，「話合い活動の記録」のコーナーを設け，友だちの考えを聞いて新たに感じたことや考えたことを記入できるようにしている。	・第２学年以上の学年の巻頭に，「道徳の時間はこんな時間」というページを設け，道徳の時間の学び方を例示している。 ・教材の終わりに，「考えよう　話し合おう」のコーナーを設け，「学習の道すじ」の中で，学習のめあて等を示している。 ・「考えよう　話し合おう」のコーナーに，学習を広げる内容として「活動しよう」のマークを示している。 ・「考えよう　話し合おう」のコーナーに，学習を広げる内容として本の紹介をしている。 ・別冊の巻末に「心のしおり」があり，先生や家族にノートを見てもらった日を記録できるようにしている。	・低・中学年ではいじめを間接的に扱った教材を選定し，高学年ではいじめを直接的に扱った教材も合わせて選定している。 ・いじめ，情報モラル，安全・防災教育，オリパラ教育等の現代的な課題に対する内容を位置付けている。	・学習指導要領の四つの視点について，それぞれ異なった色を設定し，教材の冒頭に記している。 ・教材によっては，インターネットマークがあり，関わりのある情報を見ることができるようにしている。	・別冊に，自分の考えを書く箇所を設けている。 ・巻頭「道徳の時間はこんな時間」の中に，話合いの意義やポイントなどを示している。 ・別冊の巻末に，体験活動を記録しておくコーナーを設けている。 ・全ての教材の終わりに「考えよう　話し合おう」のコーナーを設け，話合いの視点を示している。 ・別冊の巻末に自己評価についてマークに色をぬる折込を設けている。